

お茶の間ゴブリン4th Express

大人の銀河鉄道の夜

作 小川大二郎

《メインキャスト》

岡田奈津美・・・大企業勤務のOL

飯田梨花・・・銀座のクラブ【ゴブール】のチーママ

車掌（駅員）・・・謎の存在。解説・進行役

ジョンパネルラ・・・いじめられっこ。カバンニの親友

カバンニ・・・育ちのいい坊ちゃん。ジョンパネルラの親友

星野鉄夫・・・テメールと宇宙を旅しながら、成長する青年

テメール・・・鉄夫と共に宇宙を旅する謎の女

坂上和樹・・・青年実業家。奈津美と梨花を二股かけていた

坂上玲奈・・・坂上和樹の妹。病弱で純粋な心の持ち主

キャプテン・・・かつては宇宙をまたにかけて活躍した伝説の海賊

クイーン・・・キャプテンと共に宇宙海賊時代を築いた女海賊

《ゲストキャスト》

ザネリ・・・ジョンパネルラとカバンニの同級生。川で溺れたところをカバンニに助けられたことがある

レイジ・・・著作権を主張する人。苗字はマ○モト？

ケンジ・・・著作権を主張する人。苗字はミヤ○ワ？

【第1場】駅前広場

暗転の中響く電車の音、雑踏、駅員の声。新橋駅日比谷口改札

駅員 お急ぎください

駆け足の音

駅員 新橋駅、山手線最終電車到着しておりまーす。お急ぎください！

改札前に岡田奈津美がやって来る。改札へ入ろうとするが、ふと立ち止まり、少し考える

駅員 終電ですよー！

奈津美 ……

駅員 いいんですかー？

奈津美 ……

駅員 乗らないんですかー？

奈津美 あ、ええ…

駅員 山手線最終電車、発車しまーす！

後ろで流れる新橋駅の発車メロデー。駅員の笛、扉の閉まる音。発車音

駅員 ただいまの電車を持ちまして、本日の新橋駅の電車は全て終了致しました。

また明日のご利用をお待ちしています

怪訝そうに奈津美を見ながら改札内へ入っていく駅員。シャッター音が響き、やがて閉まりきる
急に訪れる静寂。残される奈津美

奈津美

うーん・・・もう少し飲むか

近くのベンチに座り携帯を取り出す

奈津美

さてと、朝までやってる良さげなお店は・・・

そこへ飯田梨花が走ってくる

梨花

ああ、やっぱり行っちゃったかあ。まあ、しょうがない

梨花、近くのベンチへ（奈津美とは離れている）。梨花も携帯を取り出す

梨花

飲むべきか、タクシーか・・・

二人

うーん・・・

明かりは奈津美のほうへ

~~~~奈津美の回想~~~~ シルエットの部長

部長

岡田君、君のおかげで今期の業績目標も達成できそうだよ

奈津美

グループの皆さんの頑張りですから、私の力じゃありません

部長

いや、実際に君の頑張りがなければ、六菱物産としてグループに業績の下方修正を報告しなければならないところだった

奈津美

私なんて・・・ただ少し提案をさせて頂いただけです

部長

その提案が、六菱物産の全体の刺激になったんだよ

奈津美

そう言って頂ければ幸いです

部長

謙遜しなくていい。そうだ、どうかな？今晚食事でも

奈津美

皆さんとですか？

部長

いや、今日は我々二人だけだ

奈津美

えー・・・どうしましょう？

部長

私と二人じゃ不満か？

奈津美

私、口説かれてます？

部長

どう捉えるかは君次第だよ

奈津美

今日はやめておきます。このあと予定があるので

部長

そうか、残念だよ。私をもっと若ければ本気で口説きに行くんだが

奈津美

部長、セクハラですか？

部長

あははは、参るな。その立ち回り上手も恐れ入るよ

奈津美

よし、もう少し内密にしておこうと思っただが、当事者だし、君には先に話しておこう

部長

何をです？

奈津美

実は来期に、当社で大きな企画を立ち上げることになっている。社運を賭けた大きなプロジェクトだ

部長

はあ・・・

奈津美

そのチームのリーダーに岡田奈津美くん、君を指名しようと考えている

部長

え、私、ですか？！

奈津美

ああ。うまくいけば業績は3倍以上になる。六菱グループの中でもトップになるだろう。

部長

新しいチームとしての立ち上げだから、リーダーの君には課長待遇として就いて貰うことになる。

奈津美

プロジェクトが成功すれば、ゆくゆくは部として独立させることになるだろうから、君は部長か・・・

部長

どうした？不満か？

奈津美

いえ、いえいえいえとんでもない！でも・・・

部長

私は君の仕事に期待しているんだ。やれるのか？やれないのか？

奈津美

あ・・・やれます。やります。やらせてください！！

部長

うん。まあ、それしか答えようがないよな。でも私がかう少し若かったらという話、あれは本当だ

奈津美

はい、セクハラです

部長

わかったよ、敏感に突っ込むんじゃない。頼んだぞ

部長

わかったよ、敏感に突っ込むんじゃない。頼んだぞ

和やかな空気の中、奈津美の灯りが消え梨花のほうへ  
~~~~梨花の回想~~~~ ママと大神のシルエット

梨花ちゃん。大神さんいらしたわよー

ママ 梨花 ーい、お待たせ致しました。本日もご来店ありがとうございます

ママ 大神さんには梨花がお気に入りです。昔はママ、ママって私目当てで来てくれたのに

ママ 大 神 ーいじゃないか、こうしてママの店へ通ってるんだから

ママ 大 神 まあね、独立して銀座にお店構えられたのは大神先生のおかげですから

大 神 先生なんて呼ばれるガラじゃないよ

梨花 大 神 私にとっては大神さんもママも先生みたいな方ですよ。何も知らなかった私に色々教えてくださって

大 神 いいんだよ。我々みたいな年寄りには若いものに伝えるのが仕事な部分もある

ママ 大 神 今、年寄りに私も入れたのかしら？

大 神 本当にいつも有難うございます。お金たつてかかるのに・・・

梨花 大 神 いいのよ大神さんは。今持つてるお金、どうせ死ぬまでに使い切れないだろうし

ママ 大 神 でも・・・

梨花 大 神 いいんだよ、実際その通りなんだ。死んだあと相続で揉めるくらいなら、少しでも減らしておいたほうがいい

ママ 大 神 もうー、まだまだ元気じゃないですか

梨花 大 神 殺したって死ぬタマじゃないわよ

大 神 梨花ちゃん、君はここに入って何年になる？

梨花 大 神 もう10年です

大 神 そんなになるか

梨花 大 神 ええ、大神さんやママのそばで、お店のこと、この世界のこと色々覚えられました

ママ 大 神 ほんとに、今じゃ私のいない時には安心してママを任せられるわ

梨花 大 神 まだまだです、私なんて

ママ 大 神 何言ってるのよ。知ってる？私が休みの日の方が梨花目当てのお客様で売上いいのよ

梨花

そうなんですか？

ママ

こういうあつげらんとしたところが、この子の魅力なんでしょうね。ありのままっていうか

源氏名使わないところもそうよねえ

そうなのか？

大神

知らなかったの？この子うちに入った時に「名前をもう一個持つと本当の自分がなくなりそうだから」って、

ママ

本名の梨花のまま、今までやってるのよ

梨花

特に不便はないですよ。お客様も皆さんいい方たちですし

ママ

銀座の女は裏があるのが魅力なのよって言っても聞かないんだもの

梨花

私は普通にしていただけで・・・

大神

いいんだよ、君はそれでいいんだ。・・・どうだろう、ママ。もう彼女も10年になるそうさ。そろそろじゃないか？

ママ

あら・・・うーん、そうね。梨花ちゃんにはお客様たくさん呼んでもらったし・・・

梨花

そろそろ自分の店を持つてみてはどうだろうか？

大神

私が？

梨花

そうだ、独立だよ

大神

でも私、お金もないし・・・

梨花

金の心配はしなくていい。私がバックアップしよう

大神

そうよ、誰にお金の話してるのよ

ママ

でも、この店は・・・

梨花

いいわよ。そろそろあなたの代わりの若い子も育てなきゃいけないし、私もいつまで続けられるか分かんないんだから

ママ

君が嫌ならば無理することはないよ

梨花

え・・・

ママ

どうしたの？

梨花

急な話で驚いちゃって・・・

大神

やる気はあると思っついていいかな？

梨花

え、あ・・・はい！もちろんです、お願いしますす！！

大神

じゃあママ、不動産関係のお客からいい物件の情報でも調べてくれるか

ママ わかったわ。そうと決まれば今日は飲みましょう！かんばーい！

クラブの喧騒が下がり、街の照明に戻っていく

二人 うーん・・・

晴れない顔の二人。何かに悩んでいる？

~~~~~二人の回想~~~~~ 青年のシルエット

青年 急に呼び出しちゃってごめんね

青年 うーん、いいの

青年 仕事忙しいの？

奈津美 うん、新しいプロジェクトが決まりそうなの

梨花 ちよつといいお話を頂いてね。少しバタバタするかも

青年 そうなんだ・・・

梨花 どうしたの、元気なさそうだね？

奈津美 何でも言つてよ。隠す仲じゃないでしょ

青年 ああ・・・実は、今日は大事な話があつてさ・・・

梨花 え？！何々

青年 僕たちさ・・・何ていうのかな、もうこうなつてある程度経つしさ

奈津美 えー、急にどうしたの？

青年 そろそろ将来のことも考えていかなくちやいけないと思つんだ

奈津美 え？ええ・・・

青年 それでさ、今後のことも考えてさ

二人 もしかして・・・

青年 新しく会社を立ち上げようと思つんだ！！

梨花 おーい！！

奈津美

なんなのよー！

青年

ごめん。何かおかしなこと言ったかな？

奈津美

いや、いいの

梨花

余計なこと考えた私がいけないの

奈津美

それで、会社を立ち上げるって？

青年

そうなんだ、いま仲間たちと立ち上げた会社のグループで、事業を拡大させていこうかと思うんだ

梨花

へー、すごいねえ

青年

大したことじゃないよ。本当はひとつの業種を堅実に長く続ける事の方が大切なんだ。

だけど、僕たちベンチャーと呼ばれる企業は実績も信頼もないからさ、どうしても大手の企業には太刀打ちできないんだ。だからこそ、誰も手をつけていない新しい分野に飛び込むっていうか、隙間を縫って分野を開拓する必要があるんだよ。ビジネスになると思ったら、迷わずに飛び込んでいかないといけないんだ

奈津美

うんうん、それで？

青年

仲間とも話して、今回のビジネスチャンスは、僕主導で進めていくことになったんだ

梨花

ってことは

青年

うん、肩書きはCEOってことになるかな

奈津美

社長ってことでしょ？

梨花

すごい！で、どんな事するの？

青年

養鶏さ

奈津美

ん？

青年

ようけい

梨花

ようけい？

青年

ん、知らない？

奈津美

いや、ようけいって・・・あの？

青年

あのっていうのはどのかなあ。ヤシナウ、ニワトリって書いて養鶏

梨花

農家じゃん！

青年

そう、農家！それも畜産農家さ！

奈津美

そのどこが新しいのよ。いい、畜産なんてね、人間が土器作りの次に始めたくらいなものよ

青年

エジプトの壁画とかに書いてあるわよ

そこが逆に新しいんだ！

梨花

逆にする意味がわからないわよ。もういいから、わかりやすく説明して

青年

いいかい。確かに君の言うとおり、畜産っていうのは昔からあるものだよ。だけど、僕たちがやろうとしている畜産は、現代科学と融合して、技術的に最も最先端な技術を取り入れた、夢の畜産農業なんだ。

バイオテクノロジーって言葉があるだろ、まさにそれ。生体科学を駆使した、クリーンでエコロジーなビジネス。

そう、ビジネスなんだよ。ビジネスってカタカナで言うのと机に向かってPCで数字を弾いているイメージだろうけど、

イメージじゃ隙間は縫えない。こういう誰も思いつかないところにもビジネスは転がっているんだ

でも、そういうのって大学が既に研究してるんじゃないの？

奈津美

そこだよ！さすが君は鋭いよね、そんなところに惹かれたのかな

青年

何よ急に。照れるー

奈津美

大学と提携して起業することになってるんだ。

青年

ある大学がマグロの養殖に成功して、銀座にも料理屋を出店したっていうニュース知ってるだろ？

僕たちはそれを鶏でやろうとしているんだ。養殖法が既に確立されている分、成功率も高いし、期間も短くて済む

そっか。とにかくすごいっていう熱は伝わった

梨花

頑張ってるね。応援する

奈津美

ありがとう

青年

あなたほどじゃないけど、私にもいいことがあってるね

二人

なんだろう？

青年

あのね・・・

二人

そうだ、その前に大事な話があるんだ。そのビジネスに関係あるんだけど、君に・・・パートナーになって欲しいんだ

青年

え？

奈津美

突然のことで驚くだろうけど、君が必要なんだよ

青年

パートナーって・・・

梨花

うん、相棒ってこと

青年

それって、その・・・

青年

そう、一緒に会社を大きくしていきたいんだよ。ビジネスパートナーとして！

梨花

そっちかい！

奈津美

確信犯なのかしら・・・

青年

だめかな？突然だし、君が今の仕事をとても大事にしているっていうのもわかってるんだ。

でも君と付き合ってみて思ったのは、君は僕の持っていないものをたくさん持っているっていうこと。

それが今の僕には足りないもので、これからきつと必要になってくるものなんだ。

このビジネスに君が加わってくれば、成功はより確実なものになるんだ。

梨花

ねえ・・・

奈津美

あなたにとつての私って・・・

青年

あ！誤解を与えていたなら謝るよ。もちろんこの話は、女性としての君を大好きだからこそ言葉さ。

二人

このビジネスが成功したら、ゆくゆくは・・・  
ゆくゆくは？

青年

人生の、パートナーとしても・・・

二人

それって・・・

青年

でも、この話をもっとちゃんとした機会がいいかな

二人

んもー・・・

青年

どうかな？悪い話ではないと思うんだ。もちろんすぐじゃなくてもいいし、考える時間も必要だと思うから、

梨花

僕は岩手に先に行つて待つてね

奈津美

そう・・・少し考えたいかも

二人

やっぱり仕事を辞めるとなるとね

青年

ん？岩手???

二人

そうなんだ。大学の場所と土地の関係で岩手に第一ブランドを建てることにしたんだよ。

青年

だから僕は先に行つて君を迎える準備をしておく。君は身支度を整えてからゆつと来てくれて構わない。

二人

一度向こうでスタートしたら、しばらくは東京に戻つて来られないかもしれないしね。

二人

先に行く僕とは数ヶ月会えないかもしれないけど、必ず来てくれるって信じて待つてるから。

二人

ところで、さつき君が言つてたいいことつて？  
・・・いや、いいの・・・

青年のシルエツトがぼやけて現実へ戻っていく  
街の音

二人  
うーん・・・

同じ溜息を付いた二人。なんとなく目が合うも、再び自分の世界へ  
そこへ駅員がやって来る。さつきとは身なりや歩き方が違うようだ  
駅員は持っているライトを大きく振り回すと首にかかった笛を鳴らす

駅員  
奈津美

発車準備完了！  
もう始発・・・？

広場にあるSLのライトが点滅する

梨花  
駅員

え？今・・・  
点滅よし。点灯！

SLのライトが大きく光る

奈津美  
駅員

嘘でしょ・・・  
列車が動きます。ご注意ください。汽笛発報！

煙とともに汽笛が響き渡り、汽車は稼働をはじめ、二人の前で止まる

奈津美  
梨花  
駅員

・・・そんな飲みすぎたつけない  
夢だ、起きなきゃ・・・  
本日は銀河鉄道 新橋駅前広場駅をご利用頂きまして誠にありがとうございます。

当列車はまもなく発車致します。ご購入になりましたお持ちください。

奈津美 (梨花に) ねえ、これどういうことですか？

梨花 だから・・・夢、なんですよね？

奈津美 やっぱ、そうですよね

梨花 つてことは、あなたもあの駅員さんも私の夢の人？

奈津美 いやいや、あなたが私の夢の中の人でしょ

梨花 うわあ、この人私の夢の人なのに凄い勝手なこと言う

奈津美 夢だからいいけど、夢の中の人に失礼なこと言われた

駅員 お二人、乗らないんですか？

梨花 乗れるんですか？

駅員 もちろんですよ

奈津美 でもこれって、どこに行くんですか？

駅員 乗ればわかりますよ

奈津美 そんなどこ行くかわからない電車に乗るなんて・・・

梨花 はい、乗ります！

奈津美 え？

梨花 だって夢だしね。やっぱり今日は飲み過ぎちゃったかなあ

駅員 夢じゃないかもしれせんよ？

梨花 ありえないでしょ。夢なら楽しまないとね

駅員 (奈津美に) あなたはどうしますか？

奈津美 ・・・・私の夢の中の人、私の夢で楽しもうとしてる

駅員 まもなく発車しますよ

奈津美 飲みすぎたのは私？

発車ベルが鳴る

駅員 ほら、早く決めてください！

奈津美

の・・・乗ります

駅員

畏まりました。それではお二人にはこちらをお渡ししておきます。

二人に切符を渡す

駅員

なくさないように。

二人、汽車に乗り込む

駅員

良い旅を。出発、進行ー！！

汽笛とともに汽車がゆつくりと動き始め、だんだんとスピードを上げていく  
再度汽笛

オープニングアクト《星めぐりの歌》

【第2場】銀河鉄道

オーブニングが終わると、走る列車の車内で寝ている二人

奈津美

(起きる) あれ？ やっぱり夢だつたんだよね。 あんな夢見るなんて、よっぽど悩んでるのかなあ。

梨花

・ ・ ・ つて、どこそこ？ 電車？ 嘘、だって ・ ・ ・ これ、まだ夢だわ。 ねえ、ちよつと (梨花を揺する)

奈津美

違います

奈津美

つてことは、まだ夢なんだ。 うわー電車走ってるー。 すごーいレトロー  
なんで私の夢で私より楽しそうにできるのかしら

車掌が入ってくる。 駅員とどこが違う (別人？ 同じ人？)

車掌

目を覚まされましたか？ 本日はご乗車ありがとうございました

梨花

あ、さっきの駅員さん

車掌

いえ、お会いするのは初めてだと思いますよ。 わたくしは当列車の車掌を務めております

梨花

えー、同じに見えるけどなあ

車掌

そうですか？

奈津美

あの、今何処を走っているんでしょうか？  
どこ ・ ・ ・ うーん、まだ発車してすぐですから、遠くまでは来ておりませんが  
遠くつて何駅ですか？ この電車、何線なんですか？

梨花

そういえば外真つ暗だもんね。 地下鉄？

車掌

地下？ むしろ真逆です

梨花

(窓を見て) わあほんとだあ、星が綺麗

奈津美

ちよつと、建物は何も見えないじゃないですか。 寝てる間にどれだけ田舎まで来ちゃったのよ

車掌

いえいえ、まだ出発して少ししか経っておりませんので

奈津美

ここは何県ですか？ 千葉？ 埼玉？ 最寄駅はどこですか？



梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

車掌

奈津美

車掌

奈津美

車掌

梨花

車掌

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

え？

夢の中だつてことすっかり忘れてた

ああ！

馬鹿みたい。夢なのに、帰ろうとしたり仕事の事考えたり

そっか、夢だつたの忘れてはしゃいじやった

あー、なんかどつと疲れた

でも夢なら楽しまないとじやない？

もういい、好きにしてください

初めは皆様、夢だと思われるんですよ

だつてそうでしょう

夢じやなかったらどうします？

どうもしないです。あり得ないんだから

あり得るんです。現にほら、ここにこうしていらつしやるわけですし

だから、それを夢だと言つてゐるんです

うーん、いつもこれが一番面倒くさい。どうやったら信じていただけるのやら

(ほっぺをつねって)むー・・・痛い

でしょ？

あなたもつねってみたら？痛いから

・・・(ほっぺをつねって)痛い

でしょ？夢じやないのかな？

夢が痛くないなんて信じません。痛い夢だつていっばい見てるもん

うーん、そうかあ・・・じやあ夢かなあ

ちよつと、あなた。私の事・・・叩いてよ

え？

夢なら、叩いても痛くないかもしれないから(ほっぺたを出す)

いいいの？

早く

梨花 　　「えい！（ビシ）・・・どう？平気

奈津美 　　「なんか・・・痛くないかも！

梨花 　　「嘘？！

奈津美 　　「あなたもやってあげるわ

梨花 　　「うん

奈津美 　　「えい（ビシ！）・・・ね

梨花 　　「うー嘘だ。痛い知ってて仕返しした！

奈津美 　　「そんなことないわよ。痛くないでしょ

梨花 　　「じゃもう一回やってもいいの？

奈津美 　　「え？！・・・ええ、もちろん

梨花 　　「（ビシ！ビシ！）

奈津美 　　「何で二回やるのよ！

梨花 　　「痛くないんだからいいでしょ

奈津美 　　「だめよ！なんか気分的にいらつとずするもの

車掌 　　「ちよ、ちよつと・・・

二人、たたき合いから掴み合いになり、ある程度で車掌に止められる

車掌 　　「やめてください！車内での暴力行為は厳禁です！

奈津美 　　「（息切れしながら）いいわ、これが夢かどうか確かめようじゃないの

梨花 　　「（息切れ）そうね、でも私はもうどつちでもいい

奈津美 　　「なんでよ

梨花 　　「夢でも現実でも、こんな体験なかなかできないだろうから。楽しむことにする

奈津美 　　「・・・それもそうね

【第3場】 ジョンプネルラとカバンニ

隣の車両から少年の声

カバンニ  
ジョン

(オフ) 走ったら危ないよ！  
(オフ) あ！あそこにいたよ！車掌さーん

ジョンプネルラとカバンニが入ってくる

車掌

どうしましたか？そんなに慌てて

ジョン

あのさー、あつちにすつごい変なお客が乗ってたんだ！

カバンニ

そうそう一人でずつとブツブツ言ってたんです

ジョン

もしかしたら、シャシンプかもしれないからさ！

車掌

写真部？！

ジョン

そーやばいでしょ！

奈津美

写真部ってカメラ持つてる人の事？

ジョン

うわ！女だ！！

カバンニ

ジョンプネルラ、失礼だよ。

奈津美

女って

ジョン

とにかくさあ、車掌さん。シャシンプなんだよ。怪しい奴なんだよ！

カバンニ

ジョンプネルラ、それって・・・

梨花

カメラ持つてると怪しいの？

奈津美

まあ、怪しそうには見えるけど

ジョン

何言ってるんだよ！怪しい奴は全員シャシンプだろ！

カバンニ

不審者だね！ジョンプネルラ

ジョン

・・・ん？

カバンニ

ふ・し・ん・しや

ジョン うん、初めからそう言ってるし

梨花 言つてないよ！いろいろ順番違つし、濁点ついてるし

ジョン うるせえ女だなー！

カバンニ ジョンパネラ！ダメだよそんな言い方。(二人に)ごめんささい

梨花 いいわよ別に

カバンニ 君はいつもそうやって謝らないから、皆を怒らせる時があるんだよ

僕は君のいいところを知っているから分かるけど、他の人たちにはそういう訳にいかないだろう？

ジョン そんなこと今はいんだよ。それよりも・・・

カバンニ 不審者

ジョン そう！不審者！車掌さん

車掌 大丈夫、この列車に身元の分らない方は乗れません。万が一乗っていたとしたら警報が作動するようになっていきます

ジョン じゃあさ、この女たちも不審者じゃないの？

カバンニ ジョンパネラ

ジョン じゃあ、このおばさんたち

おば・・・

梨花 女のほうが良かったかも

奈津美 いいわ、もう片足突つ込んでるから

梨花 両足どつぷりかもしれない

車掌 この方たちもちゃんと前の駅からお乗りになっている大切なお客様ですよ

ジョン ふーん・・・

奈津美 何よ、おばさんジロジロ見ても面白くないでしょ

ジョン 俺、ジョンパネラ！よろしくね！(握手)

カバンニ 僕はカバンニです

奈津美 ジョンパネラにカバンニって、もしかしたら

車掌 気がつかれましたか？

奈津美 あの物語の？

車掌 そうです。日本ではとても有名人だと聞いております

梨花

車掌

カバンニ

梨花

カバンニ

奈津美

梨花

奈津美

ジョン

カバンニ

梨花

奈津美

車掌

でも、名前がちよつと？

彼なりのアレンジというか、オリジナリティではないでしょうか？

おばさんたちの名前はなんていうんですか？

またおばさんって言われたー

ごめんなさい。名前を教えて貰ったら、名前で呼びます

そういえば、私たちもお互いの名前、知らなかったわね

そうね。私は飯田梨花。梨花って呼んで

私は岡田奈津美です

梨花と奈津美だな。オツケー

改めまして梨花さん、奈津美さん、よろしくお願ひします

よろしくー。でも不思議だなあ、あのお話のモデルが実在してるなんて

そうね・・・ん？ちよつと待って。あれって80年以上前のお話よ。そのモデルがまだ生きてて子供のままなんて

そう、そこがこの銀河鉄道の不思議なところといえますか・・・

ここでの時間経過というのはそれぞれの人間の思った通りに流れているのです。

だから、あなたが思っている時間の流れと、彼らの思っている時間の流れ方は全く違うのです。

もちろん、奈津美さんと梨花さんの思っている時間の概念が違うのであれば、流れ方も変わってくるのです

・・・不思議電車って事ね

まずまず夢な気がしてきましたわ

それからもう一つ。先ほどから電車という言葉が使われておりますが、正しくは列車でございます。

この列車の動力は電気ではありませんので

じゃあ何で動いているの？

それは・・・秘密でございます。しいてヒントを差し上げるのであれば、汽車であるという事でしょうか

あ、でも石炭で動いているわけでもありませんよ

・・・不思議列車ってことね

そんな感じの認識で結構でございます

ねえ、物語だと彼らの行き先って確か、サザンクロスだったと思うんだけど。結末も、確かあなたの方が・・・

奈津美 何よ大きな声出して

車掌 それは物語の中のこと。あなたが決めることではありません

奈津美 私、いけないと言いましたか？

車掌 銀河鉄道に乗る者にとつて、行き先はとても大事なことです

奈津美 たちはどこに行きたいんだよ？

ジョン 聞いたらダメだよ

カバンニ いいんだよ、聞くだけなら。ね、車掌さん

ジョン ええ、聞くのは構いませんよ

車掌 私たちの行先？

奈津美 なるほど、列車なんだから目的地は必要なわけよね

梨花 でも私、どこかに行きたいから乗ったわけじゃないし

車掌 それはおかしいですね。銀河鉄道は「ここではないどこかに行きたい」と強く思っている方や、いてはいけない場所に

奈津美 留まり続けようとしている方の前に現れるのです。あなた方もどちらかに当てはまる筈なのですが・・・

梨花 私も。今に不満なんかないもの

車掌 では後者の方でしょうか？本当はもう、今いる環境に留まり続けてはいけないとか。

奈津美 実は既にお亡くなりになつていたり？周りの方があなたの事を必要ないと思つていたり

梨花 そんなことないです！私は皆から必要とされてます！

車掌 私もです。今日だつてお店出てきたし、死んでません！

車掌 そうですか、おかしいですね

カバンニ 車掌さん、切符見せてもらつたら？

車掌 そうでした。切符を拝見致しますよう

梨花 切符？ああ、そういえば乗る時になんか渡された。どこやったっけなあ

奈津美 これですか？

車掌 そちらです。拝見致します

車掌二人から切符を預かる。覗き込むカバンニ

車掌

ジョン

梨花

車掌

奈津美

車掌

梨花

車掌

奈津美

車掌

奈津美

車掌

奈津美

梨花

車掌

梨花

車掌

梨花

車掌

奈津美

車掌

いやー・・・これは・・・

何だよー！つまんないの

え？何々？

失礼。お返し致しますね

この切符、なんなんですか？

書いてある通りです

無期限

左様です。つまりは、行き先が決まっていない切符。どこで降りても結構ですし、いつまで乗っていても構わないという切符です。たまにいらつしやるんですよ、行き先の決まっていないお客様が。

大抵のお客様は行き先が決まっているけれど、何故そこに行かなければならないのかかがわからない、行き先は分かっているけれども、行く決心がつかないという方がこの列車の中で心を整理なさるんですが、

稀にいらつしやるその乗車券をお持ちのお客様は、列車に乗ってから目的地を決めるといふ、列車のルールからは少し逸脱されたお客様なのです

それが私達？

ええ。それをお持ちということは、よっぽど何かに悩んでいらしたんじゃないですか？

え！？・・・いえ、全然！！

本当ですか？

もちろんです（梨花を見る）

え？！・・・私も全然！悩んでなんかないし

まあ、時間はたっぷりありますから、ごゆっくりどうぞ

この列車はどこへ向かっているの？

いい質問ですね。この列車は呼ばれた人の元へ行き、乗っている方の行きたいところへ進みます

行き先が決まっていって事？

はい。ですから、あなた方の行きたい場所が決まれば、そちらまで進路をとりますよ

じゃあ、地球！元いた場所に帰りたいです！

本当ですか？

奈津美

勿論です

汽笛の音

車掌

おっと、停車するみたいです。私は一旦失礼しますね。  
そうだ、あなた方が本当に地球へ戻りたいと願っているのであれば、もうとづくに地球へ着いている筈ですけどね。  
・・・失礼

車掌、出て行く

ジョン

カバンニ、見に行こうよ！

カバンニ

うん

梨花

降りられるの？

ジョン

うん

奈津美

宇宙よ！空気とかは？

カバンニ

心配しなくても大丈夫ですよ。さつきからその窓も開いていますし

梨花

嘘？！あ、ホントだ

ジョン

大人の常識なんかいらなんて事。行こう、カバンニ！

ジョンパネルラ、出ていく

カバンニ

(行きかけて) そうだ、さつきの行き先の話。ジョンパネルラもお二人と同じ切符を持つてるんです

梨花

無期限？

カバンニ

ええ。でも、僕は行き先が決まっています・・・さつき梨花さんが言いかけましたよね？

梨花

他の人が降りるために今まで何度も停車しているんですけど、僕はどうしても勇気が出なくて・・・  
だから彼がずつと付き添ってくれているんです。ちよつとガサツな部分もあるけど、本当はとても優しいんです。  
うん、なんとなく分かる

カバンニ

良かった。行き先、早く決まるといいですね

カバンニ、出ていく

梨花

ねえ、私たちも行かない？

奈津美

うーん、やめとく。ちよつと考えたいから

梨花

行き先のこと？

奈津美

うん。どこかに行きたかった訳じゃないけど、迷ってたのは本当だから

梨花

そうなんだ・・・私もなんだよね。実は悩んでたの

奈津美

ホントに？

梨花

うん。奈津美さんが・・・

奈津美

奈津美でいいよ

梨花

ありがと。じゃ、私のことも梨花って呼んでね

奈津美

うん

梨花

奈津美が地球へ戻りたいって言った時に、戻ったらまた迷わなきゃいけないって思ったの。

奈津美

戻りたい気持ちはあるんだけど、もう少し戻りたくないかもとも思ってた・・・

梨花

私も、ちよつと思ってた

奈津美

やっぱり迷ってるからここに来たのかな？

梨花

わかんないけど

奈津美

私達、もしかしたらすごい似た境遇なのかもしれないよね

梨花

そうかもね

奈津美

格好は全然違うけどね。奈津美はOL？

梨花

うん。梨花は・・・

奈津美

お水！銀座だね。これでも結構人気なんだよ。今度遊びに来てよ！

梨花

え？でもそういうところって男の人が行く所でしょ？高いって聞くし

奈津美

いいのいいの。奈津美が来たら居酒屋料金でいいからさ

奈津美

じゃあ、今度行ってみようかなあ

梨花 来て来て！後で名刺あげるね。あ、でも・・・  
奈津美 どうしたの？  
梨花 お店変わるかもしれないんだ  
奈津美 なんかにトラブル？それで悩んでたの？  
梨花 いや、それは別なの。優しいお客さんがいてね。資金援助するから独立しないかって言われてて  
奈津美 すごいじゃない  
梨花 でも、もしかしたらそれもないかも  
奈津美 何？  
梨花・・・うーん  
奈津美 それが梨花の悩み？  
梨花 まあ・・・ね  
奈津美 もしかして、男？彼氏が独立反対してるとか？  
梨花・・・反対っていうか、彼はまだその話知らなくて  
奈津美 何で、素敵な話なのに。あ、お水自体、反対とか？  
梨花 いや、もともとお店で知り合った人なんだけど。何となくどちらにも踏ん切りがつかないっていうかね  
奈津美 整理できたら話して  
梨花 うん、ありがとう。奈津美は何を迷ってるの？  
奈津美 私も似たような感じかなあ  
梨花 男？

奈津美 まあ、遠からず。六菱物産って知ってるでしょ。私そこで働いてるの  
梨花 知ってる！すごい大手じゃない。私の店にもお偉いさん来るよ  
奈津美 ホントに？！多分ほとんど知り合いだわ  
梨花 すごーい、大きな会社なのに重役さんと面識あるんだ。偉いんだね奈津美は  
奈津美 そんなことないって・・・まあ、私も仕事を取るか男を取るかで悩んでてね  
梨花 あはは、一緒だ  
奈津美 まあ、ね。あーあ、女の幸せってなんだろうなあ〜！  
梨花 少なくとも、小劇場とかで芝居やって、公演の度に命削る事ではないと思う

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

何、急に！

は！・・・急にそんな感情が湧き上がってきたの

それは押さえておきましょう、危険すぎるわ

そうね、危険すぎるわね

でも案外、そんな感じが一番幸せなのかもね。私達の常識なんていらないうところに幸せがあるのかも

列車が停車する

着いたみたい

車掌

お待ちせ致しました。白鳥座ノーザンクロス駅に到着です。停車時間は20分でございます。

お乗り遅れございますと、永遠にご乗車できない場合もありますので、ご注意くださいませ。

気圧は地球基準で0.9、温度は平均で12度。大変過こしやすい星でございます

あ、見て。ジョンパネラが手振ってる

ホントだ。

あれ？

どうしたの？

いや、いま知り合いがいたような気がして

嘘ー？！

気のせいよね

【第4場】鉄夫とテール

車両の扉が開き、鉄夫とテールが入ってくる

鉄夫 懐かしいなあ！何も変わってない。昔のまんまだ

テール そうね・・・

鉄夫 また、旅が始まるんだな

テール そうね・・・

二人が着席すると、車掌が入ってくる

車掌 おや、梨花さんに奈津美さん。お二人は降りられないのですか？

奈津美 ええ、ちよつと色々あつて

車掌 はて？色々とは何でしょうか。目的地のヒントも見つかるかもしれませんよ

梨花 車掌さん。大人の事情なんです

車掌 はて、大人の事情？

奈津美 この劇場で、このセットで、乗ったり降りたりしたら、場面転換がどれだけ大変だと思います？

車掌 もうそれ以上言わなくて結構です

鉄夫 車掌さん！

車掌 これは・・・鉄夫さん！それから、テールさん！！

鉄夫 久しぶり！車掌さん！

テール いやー、お久しぶりでございます！また旅に出られるのですか？

車掌 車掌さん、今回もよろしくお願いします

車掌 ええ、もちろんです。テールさん

梨花 なんかに聞いたことある名前だ

奈津美 て、鉄郎とメーテル・・・

梨花 いや、ちよつと違った



奈津美 やっぱり違うよね  
鉄夫 何だよ人のことジロジロ見て、違うとか老けたとか・・・もういい行こうテメル

鉄夫、テメルの手を取り移動しようとする

奈津美 ごめんなさい。怒らせるつもりはなかったの

梨花 うん。ただあなたの方があまりに有名人で、私たちの中でイメージが出来上がっちゃってたから

鉄夫 有名人？俺が？

奈津美

鉄夫 ホントに？地球で？

梨花 ええ

鉄夫 いやー参るなあ！そう言われるとなんか許せちゃうよね

テメル 鉄夫、はしゃいではいけませんよ

奈津美 あの、メーテ、いやテメルさんも凄く有名ですよ

テメル ・・・・私が？

奈津美 テレビ放送が終わってずいぶん経ちますけど、いまだにあなたのファンが沢山います

テメル 私の・・・ファン

奈津美 ええ

テメル 地球に、私のファンが？

奈津美 はい、沢山います

テメル 沢山・・・鉄夫

鉄夫 なんだいテメル

テメル 地球に行きましょう

鉄夫 わかったよテメル・・・って、ええ？！

テメル 長い間旅してやっとなわかったわね

鉄夫 ちよっと、テメル

テメル 最初の目的地はアンドロメダ、機械の体を手に入れるため。

鉄夫  
テームル

「ただけ旅を重ねることにその目的は違った事に気がついたわ。鉄夫も成長を重ねてこうやって大人になった。そして遂にわかったのよ鉄夫、私たちの目的地は地球だったの……」

鉄夫  
テームル

「さあ、車掌さん。私たちは大きく望みます！地球への旅を！」

鉄夫  
テームル

「テームル……！！」

鉄夫  
テームル

「なんてす鉄夫、大きな声を出して」

鉄夫  
テームル

「なんですじゃないよ、テームル。それだけは駄目だつて何故です？」

鉄夫  
テームル

「だつて……出発地点だよ」

鉄夫  
テームル

「長い旅の目的地が出发点であることなど、よくあることです。そう、幸せこそは最も身近にあった。まるで青い小鳥のように……」

鉄夫  
テームル

「いや、聞こえはいいけどさあ。今まで旅して、結構敵とかと戦ったよ？ええ」

鉄夫  
テームル

「正当防衛だろうけど、これで撃ち殺したりしてるよ？」

鉄夫  
テームル

「戦士の銃、コスモドラゴン……」

鉄夫  
テームル

「目的が地球だったらさあ、俺さえ旅に出なければ死ななくていい人結構いたよ？それが、その人たちの運命だったのです」

鉄夫  
テームル

「運命っていうかさあ」

「ちよつとー、なんか揉めてます？」

「お黙りなさい」

「今大事な話なんだ」

「放つておいた方がよろしいですよ、いつものことなんです。もう30年以上も乗り降りを繰り返して、旅の目的地を探され続けているのですが、鉄夫さんの提案はテームルさんが異を唱え、逆にテームルさんの提案には鉄夫さんがといった具合に二人の目的地は決まらないのです。最終的には「決める過程が大事なんだ」と仲直りされるのですがそんなこと30年もやってるわけ？」

「お二人もそうならないようにお気をつけくださいね。おっと間もなく発車の時間だ。失礼」

車掌退場。言い争う鉄夫とテームル

車掌  
発車しまーす

発車ベル、汽笛、動き出す列車

梨花  
へえ、こーうやって飛んでくんだ

奈津美  
もう驚くこと多すぎて慣れてきた

鉄夫  
ちよつと、その二人！

奈津美  
はい？

鉄夫  
教えてくれよ！どっちの意見が正しい？

テームル  
鉄夫、それはルール違反よ。銀河鉄道での行き先は自分で決めなければならないの

鉄夫  
んだよ、じゃあ、あんたたちはどこに行こうとしてるんだよ

奈津美  
それは・・・

梨花  
私たちもあなた達と同じ

鉄夫  
何?!地球なのか!

梨花  
ううん、まだ決まってるない。最終的には地球へ帰ろうかとは思ってるけど

鉄夫  
そうか、あんたたちも無期限切符か

奈津美  
ええ

扉が開いて、カバンニとジョンバネルラが入ってくる

ジョン  
鉄夫兄ちゃん!

鉄夫  
おお、ジョンバネルラにカバンニか!

ジョン  
また乗ってきたの?

鉄夫  
ああ、またしばらく一緒だ

カバンニ  
鉄夫

まだ行き先決まってるんですか？

ああ、でもこうやって自分を探し続けていればきっと見つかる。そう信じてる！  
目的地を決めることよりも、決めるまでにどれだけ沢山成長できるかが大事なんだ！

テームル

偉いわ、鉄夫

鉄夫

ありがとう、テームル！

ジョン

ああ、またやってるよ。

奈津美

知り合い？

カバンニ

はい、ずっと前から

梨花

銀河鉄道つながりだ。銀河鉄道の友達、略して銀友だ

奈津美

全然違う世界かと思ってたら繋がってるのね

カバンニ

宇宙は一つですから

鉄夫

お前たちも早く目的地が見つかるといいな！何かあったら人生の先輩に相談するんだぞ！

テームル

テームル、食堂車に行こう

ええ、いいわ鉄夫

鉄夫、テームル出て行く

ジョン

ふん、何が先輩だってーの。こっちはお前の倍以上乗ってるっていうのに

カバンニ  
ジョンパネルラ

奈津美

嫌いななの？

ジョン

別に嫌いなわけじゃないけどさあ

カバンニ

はじめは少し年上のお兄さんが乗ってきたと思って嬉しかったんですけど

ジョン

話も合わないし

カバンニ

ほら、彼らって時空を超えて未来から来たっていう話じゃないですか

ジョン

だから僕たちには何を言ってるのかよくわからなくて

カバンニ

おまけに自分は成長してると思ってるから、どんどん年取っていくし

ジョン

僕たちが言うのもあれですけど、目的地は早く決めた方がいいですよ

ジョン あんなんなつちやう前にね

カバンニ 確かに、過程からの成長っていうのはとても大事なことだと思えますけど

ジョン いつまで自分探しに無駄な時間使ってたよって事。気がついたら年寄りじや意味ないもんなるほどね

奈津美 でもさ、私たちに決められるかなあ？

梨花 どういうこと？

奈津美 目的地って星でしょ？私、地球のことしか知らないし、そもそも地球以外に人がいるのだからびっくりなんだけど。

梨花 それなのに行き先を決めるって、選択肢、地球しかわかんないよ

奈津美 言われてみればそうよね

カバンニ 難しく考えなくていいんです。なりたい自分を思えば、あとは列車がそれに近い場所へ運んでくれますから

奈津美 なりたい自分・・・

梨花 別に、今の自分はなりたくない自分ではないんだけどなあ

ジョン そこに迷いがあったから、今ここにいるんだよ

カバンニ 早くしろとは言いましたが、折角ここに来たんです。ゆっくり考えてみるのもいいかもしれません

ジョン カバンニ！さっきの不審者見に行こうよ

ジョン そうだね、まだいるといいね

ジョン 行ってみよう！

カバジョン、出て行く

奈津美 うーん、何をどうすればいいのやら

梨花 なりたい自分ねえ

奈津美 そんなキラキラの夢見る歳でもないし

梨花 自分にとって何が幸せかを見つければいいじゃないかなあ

奈津美 幸せねえ・・・

【第0場】ザネリ ※ゲスト出演回のみ上演

ジョンパネルラが血相を変えて飛び込んでくる

ジョン

うわあああ！

梨花

びつくりしたあ

奈津美

どうしたの

ジョン

(入口を指さして) ああー！

梨花

もしかして、不審者がなんかした？

ジョン、首を左右に振る。カバンニが入ってくる

カバンニ

どうしたんだい？ジョンパネルラ

梨花

不審者が暴れてるとか？！

カバンニ

いや、そんなことは

ジョン

あいつが・・・あいつがいたんだ

カバンニ

あいつって

ザネリが入ってくる

ザネリ

おお、久しぶりじゃないか！

カバンニ

ザ、ザネリ・・・

ザネリ

ジョンパネルラに、カバンニか？

ジョン

な、なんでここにいるんだよ！

ザネリ

それはこつちが聞きたいよ。お前たち、どこにいたんだよ！

ジョン

え？

ザネリ

星祭りの夜に消えたまんま、みんな探してたんだぞ

ジョン  
だつて僕たちはずっと……

ザネリ  
ずっとここにいたのか？カバンニも

カバンニ  
ああ

ザネリ  
何年も何十年も……あの日のままじゃんか  
何十年？

ジョン  
そうか、ザネリ、君は……

カバンニ  
君たちは変わらないな

ザネリ  
君も変わってないよ

カバンニ  
俺は一回歳をとったんだ。ここへ来て、またこの姿になった

ザネリ  
君はちゃんと歳をとったんだね、良かった

カバンニ  
良くないさ、お前たちのことをずっと探してたんだぞ

ザネリ  
友達？

梨花  
うわあ、女だ！

ザネリ  
なんで女で驚くんだろう

奈津美  
彼はザネリです。僕ら同じクラスだったんです

カバンニ  
あの頃は楽しかったなあ、いつも放課後はカバンニの家へ行って……ジョンパネルラ？どうしたんだよ

ジョン  
うん……

ザネリ  
せつかくこうして再会できたんだからさあ。

梨花  
あ、でもお前はカバンニの家には来なかつたよな、アルバイトが忙しかつたもんな

ザネリ  
子供なのにアルバイトしてたの？

カバンニ  
こいつの家、貧乏だったんだよ。印刷屋で働いてたんだよな。だからお前とはあんまり遊んでなかつたか

ザネリ  
そんなことないよ、ジョンパネルラは休みの日はいつも僕と一緒にいたさ

カバンニ  
えーそうなのか？水臭いな

ザネリ  
……うん……

ジョン  
元気なくなつちやつたけど、大丈夫？

奈津美  
そ、そんなことないもん！

ジョン  
そうだ、ジョンパネルラはあれが得意だったよな。ほら、親父さんの妄想話

ジョン  
え・

ザネリ  
いつも言つてたじゃんか、親父さんは船長で今度はラッコの毛皮を買つてくるつて

ジョン  
それは妄想なんかじゃない！

ザネリ  
そう、こゝろやつてキレル時のキレ方がピカイチなんだよね。キレ芸といつたらジョンだよな

カバンニ

ザネリ  
な、カバンニ、最高だよなジョン。パネラは。俺たちはみんなジョン。パネラのキレ芸が大好きだったんだ

奈津美  
それつて芸なの？本当に怒つてるんじゃないの？

ザネリ  
そんなことないよ！なあジョン。パネラ、お前はこんなことで怒る奴じゃないもんな

ジョン  
え？う、うん・・・

ザネリ  
なあ、もう一度聞かせてくれよ親父さんの話さあ。家にお金も入れずにふらつと出て行つちやうんだろ？

ジョン  
そんなことない！僕の父さんは漁師をやっているんだ！

ザネリ  
たまに不漁が続くと稼げなくなる時もあつたけど、立派に家族を支えているんだ！

ジョン  
(拍手して) やつた！すごい！

ザネリ  
今度は遠い北の海へ行くから、きつとラッコが網の魚を食べにやつてくるんだつて、

ジョン  
だからラッコが獲れたら父さんは僕のために毛皮を作つてくれるつて約束したんだ、嘘じゃない！

ザネリ  
はははははは、笑うなだつて、笑つちやうよね

奈津美  
何が面白いのかなあ

梨花  
子供特有のツボがあるのかしら

カバンニ  
もういいだろ、ザネリ

ザネリ  
もう一回、もう一回話してよ。いいだろ？好きなんだよその話

ジョン  
もう、嫌だよ・・・

ザネリ  
もう一回だけ、な。いくよ、親父さんはクソ野郎のダメ人間で働いてないけどー、はい

ジョン  
だから僕の父さんは

梨花  
ストップ！もう話さなくていいわよ

ザネリ  
なんで止めるんだよ

梨花 こういう罪の意識がないのが一番タチ悪い

ザネリ なんだよおばちゃん！

梨花 おば・・・もういい、慣れたわ

ザネリ 勝手に入ってきて話止めるなよ！

梨花 ジョンパネルラにやらせる前にあなたが面白いことやってみなさいよ

ザネリ ・・・・え？

梨花 人にはつつかりさせてないで、あなたが私たちを笑わせてみなさいって言ってるの。できるでしょ、ゲストなんだから

ザネリ いや、聞いてないです

梨花 私たちはみんな初めからそのつもりなのよ

ザネリ マジで？

梨花 マジで。ほら出来るわよね？ザネリの面白コーナー！（拍手）

ザネリ面白いことやっついていいよ

梨花 次は？

ザネリ え？

梨花 ザネリの面白コーナーその2！（拍手）

満足いくまでどうぞ

梨花 まだやる？

ザネリ いえ、もういいです

梨花 これに懲りたら、もうジョンパネルラのこと苛めないのよ、わかった？

ザネリ 別に苛めてるつもりは

梨花 何？もう一回やる？

ザネリ いえ、すいませんでした

梨花 よし

ザネリ  
カバンニ  
そんなこと  
ジョンパネラ、カバンニ、ごめんな。俺邪魔だったみたい

ザネリ  
奈津美  
ザネリ  
頭冷やしてくる・・・一発芸が必要だったら呼んで  
本当に呼んでいいの？  
やめてください。じゃあな

ザネリ出ていく

梨花  
カバンニ  
まあ、やりきったのは認めてあげるか

梨花  
カバンニ  
別にもしてないわよ  
（ジョンに）良かったわね

奈津美  
ジョン  
ジョンパネラ？  
・・・別に俺は頼んでないし

ジョン  
カバンニ  
俺が苛められてるとか、何勝手に思い込んでんだよ。俺は別に楽しんでたし、大きなお世話だね！  
ジョンパネラ！僕はいつも言っているよ、そこが君の駄目なところなんだって！

梨花  
ジョン  
いいのよ、私もあなたのためにやった訳じゃないし  
え・・・

ジョン  
梨花  
ザネリが気に入らなかっただけで、ジョンパネラのためなんてこれっぽっちも考えてないから。ね  
ふんだ、行こうカバンニ。（出ていこうとするが、振り向いて）・・・ありがとお！

カバジョン、出ていく

奈津美  
梨花  
ふふ、男の子だねえ

ね、ほんとムカつくけど憎めないガキ

【第5場】和樹と玲奈

車掌が飛び込んでくる

車掌

ああ、こちらが空いていますのでどうぞ

奈津美

どうしたんですか？

車掌

ご気分を悪くされたお客様がいらつしやいまして、この車両で休ませて頂いてもよろしいですか？

梨花

ええ、どうぞ

車掌

さあ、こちらへどうぞ

坂上和樹に支えられて坂上玲奈が入ってくる

和樹

さあ玲奈、ここに横になつて

和樹、玲奈を空いているシートに寝かせる

和樹

大丈夫。僕が付いてるから、少し休むんだよ

玲奈

うん、ありがとう

和樹

車掌さん、ありがとうございます。しばらくこちらで休ませて頂きます

車掌

ええ

和樹

皆さんもすみません。お騒がせしま・・・

ここで顔を合わせる三人

和樹

奈津美？梨花？

奈・梨

和樹！・・・え？

和樹

どうしてここに

奈・梨

和樹

奈・梨

三人

和樹

奈津美

和樹

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

和樹

二人

和樹

二人

和樹

玲奈

和樹

玲奈

奈津美

梨花

玲奈

奈津美

梨花

それはこつちが聞きたいわ！・・・え？

何で二人一緒に？

二人？・・・え？

知り合い？

ちよつと待つて意味が分からないよ

意味が分からないのはこつちの台詞よ。あなた岩手にいるんじゃないの

それには色々事情があつて

ちよつと待つて？なんで奈津美が和樹のこと知つてるの？

和樹つて・・・そんな親しい関係？

それに岩手のことも

あなたも知つてるの？あなた達どういふ関係？

どういふつて・・・え？

まさかよね？

え？やめてよ

二人とも、落ち着こうか・・・

まずはその女（玲奈）は誰！

・・・妹です

ホントに？

はい

（咳込みながら）私は坂上和樹の妹の玲奈といいます・・・お二人は兄のお知り合いですか？

いいから、玲奈は無理しなくていいよ

だめ、ちゃんとご挨拶しなくちゃ・・・（咳）兄がお世話になっております

か・・・

可愛い・・・

ご迷惑かけてごめんなさい。これからも兄をどうぞよろしくお願いします

うん、わかったわ！

あなたのことは信じるわ！

和樹 玲奈、いいから寝てなさい（寝かせる）

奈津美 さて、和樹さん

和樹 はい

梨花 どうぞこちらへいらして

和樹 ・・・はい

奈津美 どこから突っ込んだらいいのでしょうか？

和樹 さささ、さあ・・

梨花 奈津美、あなた和樹とはどういう関係？

和樹 いや、違うんだって

梨花 黙りなさい

奈津美 ・・・きつとあなたが思っていることと同じ

梨花 つき合ってる。彼氏って事でいいかしら

奈津美 ええ。梨花は？

梨花 あなたと同じ

奈津美 和樹が彼氏。って事よね？

梨花 ええ

長い沈黙・・車掌耐えられず

車掌 ちょっと私は仕事がありますのでここで・・

二人 いなさい！

車掌 はい・・

梨花 まさかこんな繋がりあるなんてね

奈津美 ホントに・・二股、ってことでもいいのよね？

和樹 いや

梨花 他にもいるの？

和樹 それはない。二人だけだ。純粹に！

梨花 二股に純粹も何もないでしょうよ！

和樹 はい

奈津美 言い訳はある？

和樹 いや、ない

奈津美 どういうつもりだったの？

和樹 僕は本当に二人のことが大好きなんだ！

二人 は？

和樹 奈津美のことも、梨花のことも本当に愛してるんだよ

奈津美 何それ？

和樹 二人同時につき合うことがそんなに悪いことかい？

梨花 悪いわよ！

和樹 どうして！

梨花 どうしてって・・・駄目に決まってるでしょ！

奈津美 あなたは彼女が沢山いて楽しいかもしれないけど、私たちはどうなるのよ

和樹 楽しくなんかないさ・・・僕だって苦しいんだよ

奈津美 あなたが苦しむ必要ないでしょ

和樹 一人に決められない僕の苦しみが分からないだろう！

奈津美 当たり前でしょう！

和樹 なんで、なんでなんだ。僕は君たちを全力で平等に愛している！どちらかに偏ったことはない！

奈津美 例えこれが一人になっても、注ぐ愛の量が倍になる訳じゃない、既に愛で満たしているから！

和樹 それだけ君たちのことを本気で愛しているんだ

奈津美 なるほど、相手が満たされるだけ常に全力で愛せば、二股もありか・・・

梨花 なるほど

車掌 騙されちゃダメ！

和樹 騙してなんかいない！奈津美だって幸せだっただろう？

奈津美 確かに、悪くはなかったけど・・・他に彼女がいると知ってたら、満たされるものも満たされないわよ

梨花 そうね

奈津美 それに梨花、あなたも和樹が岩手にいること知ってたわよね

梨花 ええ、新しい・・・鳥？鶏？

和樹 養鶏

梨花 そうそれ

奈津美 もしかして「僕のビジネスパートナーになつてくれないか」って言われたんじゃない？

梨花 そう！言われた

奈津美 その後「ゆくゆくは人生のパートナーに」なんて結婚匂わされた？

梨花 された！

奈津美 で、岩手に来たら返すからって、お金貸した？

梨花 貸した

奈津美 いくら？

梨花 300万

奈津美 額もびったり。本当に平等に騙してくれたのね

和樹 騙すだなんて！僕は心から・・・

奈津美 二股はできても重婚はできないでしょう。二人にプロポーズするってどういうこと

和樹 プロポーズじゃない。人生のパートナーというのは・・・

奈津美 屁理屈言つても駄目。お金まで持つていったら、立派な結婚詐欺よ

和樹 そんな・・・

奈津美 梨花、欲しければ差し上げるけど、この男いる？

梨花 知らない

奈津美 つてことで車掌さん、悪党ですからどつかへ連れて行つて！

和樹 そんな・・・

車掌 まあ、聞いた限りだと犯罪かどうかギリギリですが、ここには居らつしやらない方がいいと思いますよ

奈津美 だつて僕は本気で・・・

梨花 あなたの言い訳・・・蛭子能収みたい

梨花 あ・・・

梨花 あ、妹さんは寝かせておいてあげて

車掌  
ありがとうございます  
彼女はきつと悪くないもの  
さ、行きましょう

連行される犯人のように車掌に連れられ出て行く和樹

奈津美  
梨花  
あーあ、シヨック  
ね

奈津美  
玲奈  
あんなクソ野郎だったなんて  
あの・・・

梨花  
玲奈  
起こしちゃった？

玲奈  
梨花  
少しだけ聞いてしまいました  
ああ・・・

玲奈  
奈津美  
兄が迷惑をおかけしたみたいで・・・ごめんなさい  
あなたが謝る事じゃないの

玲奈  
梨花  
いえ、きつと私のせいなんです  
あなたの？

玲奈  
梨花  
はい・・・私は生まれたときからこんな体で、ほとんど寝たきりの生活です。  
両親は岩手の田舎で農家をしていたんですが、早くに亡くなって、私たち二人は東京の親戚に引き取られました。

東京の空気は体に合わなくて私は家から出ることもできず、そんな私を親戚は煙たがり冷たく当たりました。  
学校にも行けない中で、兄だけが私を守ってくれたんです・・・

梨花  
奈津美  
あれ、いい話？

奈津美  
玲奈  
そんな時、兄が仕事の息抜きに作った携帯ゲームがたまたま話題になって・・・  
少しまとまったお金が入ってきました。そのお金で兄は部屋を借りて、私は病院に入ることができました。

奈津美  
梨花  
ITベンチャー企業のプログラマーって聞いてたけど  
それはきつと・・・格好つけたかったんだと思います。パソコンいじりが好きな、アルバイトです

梨花  
玲奈  
うわ、それも騙された

玲奈

お金が入って初めのうちは良かったのですが・・・

流行廃りの激しい世界ですから一年ほどでゲームは飽きられて、収入も減ってきました。

ちょうどその頃、東京の空気には耐えられないくらい私の病状も悪化して・・・兄は決断したんです。

今ある蓄えて岩手に帰ろうって。帰ってもう一度農家をやろうって。それが私のためだって・・・

そうなんだ・・・

大学と提携とか、バイオテクノロジーっていうのは？

・・・全くわかりません

あちゃー

でも兄は言っていました。そのうち強力な助っ人がきて手伝ってくれるんだって。

玲奈も会ったらきっと好きになる、でも素敵間人なんだよって・・・もしかしたらお二人のことでしょうか？

どう思う？

お二人だったらいいなと思います。

そう？

ええ。私、あまり人と接してこなかった分、勘は鋭いんです。お二人はきっと素敵な人です

褒められた

ごめんね玲奈ちゃん、そんなお兄さんを私怒鳴りつけちゃった

いいんです、悪いのは兄ですから。どうやってお詫びすればいいか

いいのよ、玲奈ちゃんがやったわけじゃないし

でもそれじゃあまりにも・・・私にできることは死ぬことくらいしか・・・

玲奈、手ごろに死のうとする

梨花

ちよいちよいちよい！だめだめ！

玲奈

でもお金だつて借りてるし・・・きつと殆ど私の治療代でなくなっちゃってますし

奈津美

お金かぁ・・・

玲奈

死んでお詫びさせてください！（死のうとする）

梨花

だめだめだめ！ほんと怒るわよ

玲奈  
奈津美

でも、でも・・・  
お金、もういらぬわよ  
え？

玲奈  
奈津美

勉強料ね。また稼ぐわよ。しばらく結婚の予定もなくなったし  
私もいいわ。これでも売れっ子なんだから

玲奈  
梨花

そんな・・・  
玲奈ちゃんは早く良くなつて、お兄さんを手伝ってあげて

玲奈  
奈津美

・・・はい。ありがとうございます  
無理させちゃつてごめんね、少し寝て

玲奈  
玲奈

玲奈、横になる。その顔からはペロツと舌が出る

梨花

知らなかつたなあ  
見事に騙された！

奈津美  
梨花

二股で結婚詐欺だつて  
まじめにコツコツやつてきたのになあ。慎重に、一歩ずつ  
だから今があるんじゃないの。奈津美みたいな生き方、羨ましいと思う

奈津美  
奈津美

ホントに思つてる？  
うん。できることなら昔に戻つて勉強して、奈津美みたい就職できたらつて思うことあるもん

奈津美  
梨花

そう？そんなに楽しくないよ。梨花の方がよっぽど毎日刺激的だと思ふよ。羨ましい  
そうかな？笑いたくない時でも笑わなきゃいけないんだよ

奈津美  
奈津美

それはこつちも一緒。嫌な仕事相手もあるし・・・  
梨花みたいに女の武器つていうのかな、体一つで新しい世界へ飛び込んでいけるって素敵だと思う

梨花  
奈津美

・・・ありがと  
私もありがと

梨花  
奈津美

でもね奈津美？

奈津美 何？  
梨花 私達って、仕事？男？って迷ってたじゃない？  
奈津美 ええ  
梨花 で、男の選択肢は消えたわけだ  
奈津美 うん  
梨花 つまり迷いはなくなったはず  
奈津美 はず！  
奈津美 つてことは後は帰るだけだと思うんだけど  
梨花 そうなるわね  
奈津美 この感じは・・・地球には向かっていると思う？  
梨花 ・・・・思わない  
奈津美 まだ迷ってるってことかなあ？  
梨花 なのかなあ？  
奈津美 なりたい自分が見えてないのかなあ  
梨花 ・・・・なりたいてんなんだろうね  
奈津美 わからない・・・わからないからここにいるんだね  
梨花 ねえ、和樹は、玲奈ちゃんはなんでここに来たんだろう  
奈津美 ん？  
梨花 私たちみたいに迷ってた？いや、そんな風には見えなかった  
奈津美 目的地が決まってるってこと？  
梨花 でも、岩手で農家やるって私たちのこと待ってたんだよね  
奈津美 何があったのかしら・・・

【第99場】ケンジとレイジ ※ゲスト出演回のみ上演

ニットの帽子を被った男レイジが入ってくる

レイジ

うん？！ここが一番後ろか、はて・・・（しばらくウロウロと車内を見回す）  
つかぬ事を伺うが、ここに男の人が来なかったかね？

梨花  
男の人？

奈津美  
男性なら何人か来ましたけど

レイジ  
そうか！どんな人だった？！

梨花  
どんなって、まず車掌さん

レイジ  
車掌じゃない、あんな小さいのはどうでもいい  
えーつと、ジョンパネラにカバンニ

梨花  
子供じゃない

レイジ  
和樹・・・

奈津美  
和樹？！どんな格好の男だ？

レイジ  
普通の格好ですけど

奈津美  
背は？高いか、低いかな？

レイジ  
中？くらい？

梨花  
それじゃ何もわからないじゃないか！  
どなたを探しているんですか？

レイジ  
ああ、失礼。私はレイジというもので、今日ここに私の大変尊敬する方が乗っていると聞き、  
一目お目にかかりたいと思っているのだが・・・会えなくてね

梨花  
前から後ろまでずっと歩いてくれば会えるんじゃないですか？

レイジ  
そう思っって先頭車両からここまで歩いてきたんだが、会えんのだよ

奈津美  
どんな格好の方なんですか？

レイジ  
それがわからんのだ

梨花  
それがわからんのだ

レイジ  
へ？尊敬してるのに？

梨花  
へ？尊敬してるのに？

レイジ いや、その方は私に成功のヒントを与えてくれた偉大な方なんだよ

奈津美 ミュージシャンとか、作家とか？

レイジ そう！作家であり、ミュージシャンではないが音楽も作る

奈津美 マルチな方なんですね

レイジ 確かに彼の才能は、現代ではマルチと呼べるものだろう

梨花 ファンなんですねー

レイジ そのレベルではない！彼は私の人生の師匠だ！

梨花 なのにどんな格好してるか知らないんですね

レイジ ぬぬぬ・・・一体どこへ行ったのか・・・

レイジ出ていく

梨花 マイペースな人だね

奈津美 ここに乗ってる人たちみんなそうだけどね

入れ違いで和服の男（ケンジ）が入ってくる。ブツブツと呟いている

ケンジ

雨に負けてはいけない。そう、雨ニモマケズ・・・風にも負けたくない。風ニモマケズ・・・うーむ、そうすると雪にも負けたくない。暑いにも負けたくない。雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ。とにかくもう私は負けたくない！うーーん・・・負けない！！

梨花 びつくりしたあ・・・

ケンジ ああ、怒ってはいけない、いけないんだ・・・それから丈夫な体が欲しい。欲のない気持ちと丈夫な体

奈津美 欲しいって言うてる時点で欲だけど

ケンジ ご飯は玄米でいい。玄米は体にいい。一日に玄米を二合、いや四合食べたい

梨花 倍にした

ケンジ ああ、著作権が切れてしまっている。印税が入らない

奈津美 印税？！

ケンジ

僕の言葉を使ってお金を稼ぐ者たちがいる・・・

車掌が入ってくる

車掌

ああ、ケンジさん、ここにいましたか。探されてましたよ

ケンジ

私を？

車掌

あなたに是非お会いして、お礼をしたいとのことでお礼？お金ですか？

ケンジ

お金かどうかはわかりませんが

車掌

100万円ですか？

ケンジ

いや、だからお金かどうかはわかりませんが・・・

車掌

すぐに行きましょう

ケンジ

車掌、ケンジ、出ていく

梨花

あの人、もしかしてミヤザ・・・

奈津美

言っちゃ駄目、イメージ台無しよ

レイジが入ってくる

レイジ

やはりいないか、こつちに来たと言われたんだが

梨花

まだ探してるんですか？

レイジ

ああ。トイレに行っている間にすれ違ってしまったらしい

奈津美

あの、あなたが探している人って、着物姿の方ですか？

レイジ

格好はわからんよ

梨花

確か車掌さんが、ケンジさんて・・・

レイジ

そう！それだよ正にその人だ！どつちへ行つた？

梨花 どっちって、出入口そこだけですから

レイジ ああ、そうか（出ていこうとする）

奈津美 あの・・・お金、持ってます？

レイジ いきなり何だ君は

奈津美 その、ケンジさんに会ってお礼をなさりたいんですよ？

レイジ お礼というか、まあ感謝の気持ちを伝えたいのは確かだ

100万円くらい持ってます？

レイジ 私はこう見えても結構稼いでるよ。100万くらい持っているさ

梨花 じゃあ、ケンジさんにお渡ししたら喜ぶと思いますよ

奈津美 失敬だな君たちは。いきなりお金を渡すなんて失礼なことできる訳ないだろ！

確かに普通だとそうなんです

梨花 多分喜ぶと思います

レイジ ふん、何もわかっておらん。彼はそんな欲の世界からは遥か遠くにいる方なんだよ

奈津美 私たちもそう思っていました

梨花 5分前までは

レイジ いいか、私が世に送り出してきた作品は、彼の溢れ出るインスピレーションをヒントにして生まれたんだ。

彼の作品への想いがあまりにも強かったために、気がついたら私はこの列車に乗っていたのだ。

人を宇宙へ誘ってしまうような作品を生み出せるお方が、金などという俗物に心を奪われる訳がないだろう

いやまあ、そう思いたいのであれば構いませんが

レイジ こんなくだらない事を話している暇はないんだよ、失礼する

レイジ、出ていく

梨花 私の作品で言ってたよね。てことは、彼が999の人？

奈津美 多分ね

梨花 で、着物のほうが

奈津美 うん・・・

ケンジが入ってくる

ケンジ 果たして何処にいるのだろうか

奈津美 出た！

ケンジ 私の心は春のように暖かい

梨花 あのー

ケンジ 同時に修羅のように怒っている！！

梨花 あのー

ケンジ 出来た・・・春と修羅

奈津美 あなたにお会いしたいと言っている方が出ていったばかりなんですけど、すれ違いませんでしたか？

ケンジ 私に？

奈津美 絶対会つてると思うんですけど

ケンジ 厠へ行つておりました

梨花 あなたもトイレ？！

ケンジ 私に会いたいというのは、私の言葉を使う者ですか？

奈津美 そんな感じかと

ケンジ お礼をしたいと言っていますか？

梨花 ええ

ケンジ お金ですか？

うーん、どうでしょうか

奈津美 お金は貰えないのです。彼らは決して私にお金を渡さない。お金が欲しい、私はむちゃくちゃお金が欲しい。

ケンジ だけど貰えない、だから欲してはいけない。欲のない人間、そんな人間に、私はなりたくない

梨花 いいこと言っている風だけど

奈津美 雰囲気だけよ、中身はないわね

ケンジ みんな最初は甘い言葉で私に近づいてくる。美味しい料理を食べさせてあげようと。

そのうち色々な注文をしてくるのだ。あれをしろ、これは駄目だ、勝手なことばかりなのだよ。

奈津美

ケンジ

梨花

ケンジ

それでも何とか要求に応えていると、いつの間にか私が食い物にされている。はじめから私のためではなかったのだ  
よくありそうな世間の汚い話よね

山猫のように強欲な奴らだ。だから、そんな話を書いた。そしたら売れた。お金が入ってきた・・・良かった  
え、良かったの？！

私の心は怒りと幸せで溢れている。春と修羅なのだ。

私は曲を作り、詩を書き、小説も台本も書いた。ありとあらゆることをやってみた。  
だが決して満足はしていない。私が作った言葉を使うのであれば・・・

汽笛が鳴り、車掌が入ってくる

車掌

ケンジ

車掌

ケンジ

あれ、ケンジさん、会えました？

いや、やめておきましょう

何故です？

もともと出会ってはいけません。銀河鉄道が会うべきではないと言っているのですよ

ケンジ、出ていく

車掌

梨花

車掌

奈津美

車掌

梨花

車掌

銀河鉄道が・・・なるほど

どういうこと？

長い旅の中で、同じ車内にいるのに一度も顔を合わせることがないという方がいらつしやるのです。

どうしてもすれ違ってしまふ。原因はわかりませんが、銀河鉄道が悪戯していると噂されているんですよ

ただの列車なのに？

ただの列車ではない、謎の多い不思議列車ということですよ。ああ、こんなことをしている場合ではないんだった

忙しいんですか？

・・・あなたたちのせいでしょ。失礼

車掌、出ていく

梨花  
奈津美

私たち何かしたっけ？  
わかんない

レイジが入ってくる

レイジ

また一番後ろまで来てしまった！

奈津美

本当に会えてないんですか？

レイジ

会えていないからこうやって探しているのだ  
今出ていったばかりですよ

梨花

何？またここへ来ていたのか？！

レイジ

ええ、向こうもあなたを探していましたけど  
なんなのだ全く！

奈津美

でも、ケンジさんはもう諦めたみたいですよ

レイジ

向こうは良くても、私の気が済まんのだ

梨花

銀河鉄道の悪戯なんじゃないかって、車掌さんが言っていましたよ

奈津美

なんと、銀河鉄道の？・・・それならば仕方がないか

レイジ

あら、諦めちゃうんですか？

梨花

銀河鉄道がそうしているならば、我々はまだ会うべきではないということだ。今回は諦めよう

レイジ

今回？

梨花

たまに気がつくところやつて乗っているのだが・・・

レイジ

そうだ、この人まだ生きてるんだ

奈津美

きつといつか会えるさ

レイジ

・・・会わないほうがいいかもしれませんよ

奈津美

何故だ

レイジ

イメージ全然違いますよ！多分お金要求されるし

梨花

まだそんな失礼なことを！・・・しかし会った人間が言っているのだから、そうかもしれないな

レイジ

まだそんな失礼なことを！・・・しかし会った人間が言っているのだから、そうかもしれないな

奈津美

レイジ

梨花

レイジ

梨花

奈津美

レイジ

梨花

レイジ

梨花

レイジ

奈津美

梨花

レイジ

どうします、実際お金を要求されたら？私の言葉を使ってお金を稼いだらうって

渡してもいいが・・・恐らく渡さない

なんで？！

それでは金で買ったことになってしまふ。私は尊敬しているからこそ自分の作品のヒントにしたのだ。

これはフューチャリングであり、インストウルメンタルなんだ

は？

体のいいカバーってことね

私の作品は私の作ったもの。彼が作ったものではないからな。

じゃあもし、あなたの作品からヒントを貰った人がいて、それをネタに儲けたとしたら？

・・・裁判だな

は？

徹底的に争う。私はそうして今までやってきたのだ。私の言葉は私のものだ！

うわあ

すごいこと言ってるよこの人

何か間違っているか？そうだ！そもそも今このこれ！これだよ、この作品。これはどうなっているのだ？

君たちにも訴えを・・・

汽笛が鳴る

うぬう・・・また腹の調子が・・・この話は今度ゆつくりとな

レイジ、出ていく

奈津美

梨花

銀河鉄道の悪戯・・・

本当にあるのかもね

【第6場】キャプテンとクイーン

扉が開きひとりの男が入ってくる。みすぼらしい格好、ふらついた足取り、車内を見回す二人と目が合う。そらす二人

梨花 何あの人

奈津美 知ってるわけ無いでしょ

梨花 いかにもって感じじゃない？

奈津美 いかにもなによ

梨花 不審者

二人 あ、不審者！（再び男と目が合う）

梨花 不・しん・しん・しん・しん・しん・ふ。しやしんふ．．．しやしん

奈津美 写真部！ね！

梨花 そう、写真部．．．の頃は楽しかったなあ

奈津美 卒業まで撮りまくったわね！写真！

梨花 うん、撮ったわよね！いろいろ

奈津美 風景とか

梨花 人とか

二人 ○○とか、○○とか．．．（男を伺う二人）

キャプテン ふ．．構わねえよ。不審者で（二人とは別の席に座る）

梨花 ここか、ここでいいのか．．．いや違うのか？いや、俺は待つ．．．ブツブツ

奈津美 誤魔化せなかつたね

梨花 無理だよ。セリフが悪い

奈津美 脚本のせい？！

キャプテン そういうことしておこうよ

奈津美 いや、芝居だ！芝居が悪いんだ！

キャプテン へ？！な、なんですか？

キャプテン　ん？すまない独り言だ。気にするな・・・やはり・・・ブツブツ

奈津美　怒られるのかと思っただも、変な人だね

梨花　何者なんだろう？

奈津美

ジョンパネルラとカバンニが顔を出す

ジョン　奈津美、梨花（手招き）

カバンニ　あの人ですよ

奈津美　あなたたちの言ってた、不審者？

ジョン　ああ、怪しいだろ？ずっとブツブツ言ってるさあ

梨花　確かに話した目は怪しいけど・・・見た目だけかもしれないでしょ

カバンニ　それが話してる内容も怪しいんです。ずっと来る、来る、来るとか

ジョン　突然、あーもうだめだあとか、おしまいだあとか

カバンニ　爆発だ。戦いだ。許さないぞーとか

奈津美　爆発？！

梨花　戦い？！

奈津美　ハイジャックでもするんじゃない

梨花　嘘？！そのまま自爆アロとか？！

奈津美　車掌さんは知ってるの？

カバンニ　まだです。他のお客さんたちの対応が忙しいみたいで

梨花　そんなことしてる場合じゃないでしょうよ！今すぐ知らせなきゃ

奈津美　今は？どこで何してるの

カバンニ　落ち込んでいる男の人を慰めていました

梨花　あ・・・

奈津美　和樹か

梨花　私たちのせいだ

奈津美 全くもう・・・その男のことは放っておいていいから、早くこっちに来てって、呼んできて！  
ジョン

梨花 自業自得なのよ

奈津美 ほら、早く行つてきて

ジョン わかった、行こうカバンニ

カバジョン出て行く

梨花 車掌さんが来るまで、変な事しないように見張っておかなきゃ

奈津美 大丈夫かな、突然銃とか爆弾とか出さないかな？

梨花 そしたら・・・逃げよう

奈津美 うん。見張ってる意味ないね

男、車内を見回す。寝ている玲奈を見つけ、玲奈に近づき覗き込む

梨花 た、た、ただ、寝てるだけですから

怪訝そうに梨花を見て再び席に戻る男

梨花 危なかった・・・

奈津美 何が？

鉄夫とテメールが入ってくる

梨花と奈津美の視線の先に男がいることに気づき、つかつかと歩み寄る鉄夫。男としばし睨みあう

鉄夫 キャプテン・・・

キャプテン ・・・誰だ

鉄夫 俺のこと忘れちゃったの？

キヤプテン 悪いが、お前みたいな知り合いはいない

鉄夫 そっか、こんな姿になっちゃったもんね

ターメル キヤプテン・・・

キヤプテン ターメルか？

ターメル 久しぶりですね

キヤプテン つてことはこつちの男は・・・鉄夫か？！

鉄夫 思い出してくれた？！

キヤプテン お前・・・老けたな

鉄夫 キヤプテンだつて随分変わったよ。俺は成長したんだよ！

キヤプテン いや、老けたんだよ

鉄夫 そうかなあ？

キヤプテン だつて俺と見た目そんな変わんないぞ

鉄夫 嘘だー？

キヤプテン そんなことはどうでもいい。お前たちはまだ銀河鉄道に？

鉄夫 ああ、自分を探しているところさ

キヤプテン そうか

梨花 あのー・・・知り合い？

鉄夫 何？この人知らないの？

奈津美 うん

鉄夫 この人は、かの有名な・・・

キヤプテン 鉄夫、自己紹介くらい自分でするさ。俺の名は、キヤプテン！・・・

梨花

キヤプテン 聞こえなかつたか？それとも驚いたのか？もう一度言つてやろう。俺はかつて宇宙でその名を轟かせ

奈津美 この首には莫大な賞金がかかる、伝説の宇宙海賊、キヤプテン！・・・

キヤプテン キヤプター・・・ん？

奈津美 だから、キャプテーン……ん？

キャプテーン ん？んってなんだよ

奈津美 だからその後は？キャプテーン、何？

梨花 普通続くでしょ。キャプテーン○○って

キャプテーン いや、続かないけど……

梨花 え？名前、キャプテーン？！

キャプテーン う、うん……

梨花 ええ！あるでしょうよ。キャプテーン翼とかキャプテーンアメリカとかキャプテーンあーおっう（ハーロック）とか

キャプテーン あーおっう？変な名前だな

梨花 いや、そうじゃなくてあなたのこと！

キャプテーン 俺か？俺の名前はキャプテーン！……

奈津美 なんでキャプテーンの後にならんと残した感じなのよ

キャプテーン 余韻だ！

梨花 なにそれ、キモイ

キャプテーン きも……

奈津美 ナルシストの塊ね

キャプテーン なる……

鉄夫 キャプテーンを馬鹿にするな！キャプテーンはなあこの宇宙を救った偉大な男なんだぞ！

キャプテーン 地球だって何度も救った、男の中の男なんだ、それ以上……

鉄夫 いいんだ鉄夫。……鉄夫、男には負けるとわかっていても戦わなければならぬ時があるんだ

キャプテーン キャプテーン……

鉄夫 わかるな？

鉄夫 ああ、キャプテーン、今のこの空気……大敗なんだね……

キャプテーン ああ、大敗だ。この空気……完全に俺は変な人扱いだ……

鉄夫 悔しいよキャプテーン！まさかここにいる誰もキャプテーンを知らないなんて

キャプテーン 俺は、誰のためでもない。俺の胸の中にあるもののために戦うんだ

鉄夫 流石だよキャプテーン

鉄夫

キャブテン 覚えておくんだぞ

鉄夫 俺、また成長したよ！

テメール 偉いわ鉄夫

奈津美 茶番たわ、宇宙規模の茶番たわ

梨花 でも不審者ではないみたいだよ

鉄夫 誰だ！キャブテンを不審者呼ばわりした奴は

奈津美、梨花、扉を指差す。カバジョン、車掌が入ってくる

カバンニ こつちです！早く

車掌 そんなに急がなくて大丈夫ですって

ジョン ほらあそこ！あいつだよ。奈津美、梨花、何もされてないか？

奈津美 ええ・・・

鉄夫 お前たちか

ジョン 鉄夫兄ちゃん。危ないからそいつから離れたほうがいいよ

車掌 へん？不審者とはどこにいるんですか？

ジョン ほら、鉄夫兄ちゃんの横にいるやつだよ

え？！あの方の事を言ってるんですか？！・・・なんてことを

昔から見た目は変わってしまいましたものね

なんだよ、みんな知り合いかよ

確か、ジョンパネルラにカバンニだったか？

僕らのこと知ってるんですか？

昔々・・・2、30年前に会ってるなあ。

俺はお前なんか知らないぞ！

無理もない。時が俺を大きく変えてしまった。かつての俺を知らない者などこの宇宙にいなかった。

俺を見れば人々は讚え、名前を聞けば悪党たちは震えた。子供からは羨望の眼差し、女たちからは愛の囁き。

だが今はどうだ？時が流れ俺を知る者は減っていき、挙句には不審者扱いだ。

カバンニ  
もしかして・・・キヤプテン？  
どんなに栄光や名誉を得たとしても、時が経てばそんなものは形のない思い出になるだけだ

ジョン  
嘘だろ？！

車掌  
見た目は随分変わっておりますが、間違いなくキヤプテンさんでございます。

ジョン  
だって俺の知ってるキヤプテンは・・・

カバンニ  
ジョンパネルラ、人は変わってしまうんだ。変わらないのは僕らだけ、いや僕らだって変わっているんだよ

ジョン  
でもよー、あのキヤプテンがこんなに・・・

キヤプテン  
ふ、こんな姿の俺は嫌いか？

ジョン  
そんなことはないけど・・・

鉄夫  
そうだろ。中身はキヤプテンのままなんだから

キヤプテン  
人は自分の中に、他人の理想の姿を作り出す。ジョンパネルラが戸惑うのは当然だ。

鉄夫  
今の俺はもう、お前の中にある、かつてこの汽車を救った俺じゃないのさ

キヤプテン  
俺はそんなことないよ！

鉄夫  
俺はお前のことわからなかったけどな

キヤプテン  
テームルーー！

鉄夫  
仕方ないわ鉄夫。人は必ず変わっていくもの。問題はどう変わっていくかってこと

キヤプテン  
俺はそのままの自分でいることを求めた。名誉や栄光は継続するものだと思っていた。だが、違った。そんな思い込みがこのみずぼらしい姿を作り上げたのさ

突然汽車が大きく揺れ、非常を伝えるアラームが響き、赤い非常灯が点滅する

キヤプテン  
来たか・・・

梨花  
何？！何々？！

車掌  
誰かがこの列車に乗り込んできたようです！

奈津美  
乗り込んでって、外は宇宙よ

キヤプテン  
忘れるな。ここは地球の常識が通用しない銀河鉄道だ

鉄夫  
敵かな？！テームルー、みんな下がって。キヤプテン、今度は俺が守るよ

テームル  
キュアプテン  
車掌  
常識が通じないといっても、こんなことが出来るのは  
あいつしかいないか  
こちらにやって参りますよ！

扉が開き、一人の女が入ってくる。緊張した空気が流れる

クイーン  
変わらないわね、この汽車は。行き場所を求めて彷徨う永遠の放浪列車、銀河鉄道

キュアプテン  
お前は変わったな

クイーン  
あなたもねキュアプテン

奈津美  
また知り合い？

テームル  
お久しぶりですね。クイーン

クイーン  
そう私はクイーン。キュアプテンと共に宇宙を飛び回った女海賊、クイーン！・・・

奈津美  
一応、伺っておきますが・・・

クイーン  
クイーンの後には何もつかない！私はクイーン！・・・

梨花  
キュアプテンとキアラ被らないかしら

クイーン  
彼はスマート担当。私は美しさ担当よ

梨花  
どちらも今の担当ではないと思えます

クイーン  
そうね・・・あなた方のそんな会話が私を宇宙の果てから呼び寄せたの。見た目の話でしょ？

キュアプテン  
この話をしていれば、お前がやってくると思っていた

クイーン  
私を待っていたの？

キュアプテン  
ああ。宇宙一の美しさを求めるお前は、この手の話をしているところを見つけては姿を現す。

クイーン  
美しさとは何かを語り、より美しいものが存在すれば奪ってでも手に入れるの

その通りよ。私は宇宙の全ての美しいものを欲しているの

車掌  
ビジュアル海賊、クイーン！・・・

キュアプテン  
だがその見た目じゃあ、お前も現役とは呼べないな

クイーン  
ほっておいて頂戴

テームル  
クイーン、ここへ来た目的はなんですか？

クイーン  
テームル  
また私を殺しに来たのですか？

鉄夫  
何？！

慌てなくてもいい。もう私にも昔ほどの情熱はない  
じゃあ、なんで！

クイーン  
確かめに来たの。かつて私が求めた容姿をした女のその後を

テームル  
満足して貰えましたか？

クイーン  
ええ、やはりあなたにも衰えはやってくるのね

テームル  
歳をとることは悲しいですか？

クイーン  
そうね、やっぱり機械の体が必要なのかしら

テームル  
でも悲しいことだけではありません

鉄夫  
俺はそんなテームルの事も好きだよ！

テームル  
・・・私にはこういつてくれる鉄夫がいる

クイーン  
私にはいないわ。だから、何も欲していないあなたが私より賞賛を受けていることが許せなかった

テームル  
何も欲していないわけではありません。先程も恥ずかしい姿を見せてしまいました。

私も衰えたと感じたから、他人からの賞賛が欲しくなったのかもしれない

クイーン  
あなたも私も同じ人間だってことね・・・車掌さん、お邪魔したわね

車掌  
あ、いえ、はい

クイーン  
この銀河鉄道での無賃乗車は重罪だものね

車掌  
ええ、厳しく罰せられます

クイーン  
すぐ降りるわ。楽しかった。みなさん、またお会いしましょう（踵を返し扉へ向かう）

キャプテン  
待つんだクイーン！

キャプテンが鉄夫の銃を奪い、クイーンへ向け放つが当たらず壁へ（レーザー銃？）

奈津美  
きゃあ！

キャプテン  
まさかそのまま帰れるとは思っていないよな？返してもらおうか、俺の船を

鉄夫 船だつて？ どういうことだよ！

キャプテン こいつは俺から宇宙船を奪い、海賊産業に追い込んだのさ

鉄夫 奪われたの？！

キャプテン ああ。クイーンはある星に俺だけおいて俺の船を奪い去った。クルーを誘惑し従わせてな。

一人残された俺はお前を探し宇宙を彷徨い続けたのだ。

もういいだろうクイーン。お前の色仕掛けに絆されたクルーが今も残っていると見えん。船だけでも返してくれ

クイーン あなたこそ、もういいでしょう？ 今から船を取り戻したところで、また宇宙海賊をやるの？

キャプテン 勿論だ。あの頃の栄光を俺はもう一度取り戻したい

クイーン 無理よ。やめておきなさい

キャプテン 無理かどうかはお前が決めることではない！そこをどけ。俺の船は外か？

クイーン ……

キャプテン ふ、自分で確かめるさ

鉄夫 キャプテン！俺も連れて行ってくれよ

クイーン 鉄夫！

キャプテン 本気か

鉄夫 ああ本気さ！俺もいつまでもこのままでいいとは思ってないし、キャプテンと行けるなら

クイーン ダメよ鉄夫！

鉄夫 ごめんクイーン。俺が行つて寂しくなるかもしれないけど

クイーン 違うのよ鉄夫。あなたは行くことができないの

鉄夫 誰がなんと言おうと俺は行くよ

キャプテン クイーン、何か言い残すことはあるか？

クイーン 自分の目で確かめなさい

キャプテン そうか。また会おう。騒がせたなみんな

鉄夫 じゃあね、クイーン

キャプテン、鉄夫、出て行く

奈津美

梨花

クイーン

テームル

行っちゃった

展開が早すぎてついていけないんですけど

また会おう、か・・・すぐに会えるわ

やはり、そうなんですわ

キャプテンと鉄夫、戻ってくる

クイーン

キャプテン

鉄夫

キャプテン

クイーン

奈津美

梨花

クイーン

キャプテン

クイーン

カバンニ

クイーン

キャプテン

クイーン

キャプテン

テームル

キャプテン

ジョン

カバンニ

ほら

どういうことだクイーン！俺の船はどこだ！

船なんてどこにもないじゃないか！

騙したのか？

騙してなんているわ。元々船があるなんて一言でも言ったかしら？

でも、船で来たんでしょ？

ズシーンと揺れたし

ええ、船から乗り移ったわ。だけど、乗っていた船にこの列車と併走できる程の動力は残っていませんでしたのよ。

入口同士が近づいた時に飛び移ってから、あなたの船は操縦士のいない旅に出たの

動力が？！

そう、もう何も残ってなかったの。数年間彷徨い続けたところにこの汽車がやってきたのよ

でも・・・あなたはさつきここから出ていこうとした。自分の船に帰ろうとしたんではないのですか？

いいえ、自分の終わりをくわいわかつているわ。宇宙空間へ飛び出してやるのも美しいんじゃないかと思っただけ

俺はもうダメだったのか・・・

俺が？

やはり、キャプテンも・・・

なんのことだ？！

なあ、もしかして・・・

・・・そうなんですわ

鉄夫 みんな何言ってるんだよ？

テームル そろそろ旅の終わりがやってくるのですよ、鉄夫

鉄夫 終わり？？

車掌 そうですか。それで・・・

梨花 車掌さん、どうしたの？

車掌 汽車がまっすぐにどこかを目指しているようです

奈津美 目指してるってことは、誰かの目的地？

車掌 そのようです。このルートは・・・ケンタウロス方面でございます

梨花 それって何があるの？

キャプテン クイーン。俺もお前も同じ所へ行くのか？

クイーン ええ

キャプテン そうか・・・船を取り戻すのが少し遅かったか

クイーン いいえ、いつ取り戻しても遅かったのよ、キャプテン。私はあなたから船を奪ったんじゃないの。

船長のいなくなった一団を引き取ったのよ。あなたの体は、あの星で息絶えたの

キャプテン 馬鹿な・・・

梨花 ン？つまりどういうこと？

奈津美 ・・・・キャプテンは死んでいる？

クイーン さあ、参りましょう。ケンタウロスに囲まれた地、サザンクロスへ

奈津美 サザンクロス・・・

梨花 それって

奈津美 物語に出てくる駅の一つ。天上と呼ばれ、死者たちの魂が目指す場所

車掌 どうやら目的地に間違いは無いようですね。降りるお客様が多くなりそうなので、私は一旦失礼します

キャプテン 少し一人にさせてくれ

キャプテン、車掌、出ていく

【第7場】サザンクロス

梨花

クイーンさん、あなたも同じ目的地だと・・・

クイーン

ええ、私の体も既に朽ちています。やっと汽車に拾って貰えた。無賃乗車だけど

クイーン

クイーン、これを・・・

クイーン

これは、私の乗車券・・・！

クイーン

ずいぶん前に車掌さんから預かっていたの。いつかあなたが乗ってきた時のために

クイーン

私のために・・・

クイーン

本当は私と鉄夫の旅も、ずいぶん前に終わっているの

鉄夫

クイーン？！

クイーン

終わってからの旅は、あなたを探す旅・・・待つ旅・・・

鉄夫

どういうこと？

クイーン

鉄夫、成長し続けているのはあなたの精神だけ。肉体はもうないのですよ

鉄夫

・・・何言ってるんだよクイーン！

クイーン

あなたは迷いすぎた。迷っている間に、この宇宙であなたも私の肉体も朽ちてしまったの

鉄夫

俺の体が？嘘だ！こうやってあるじゃないか！

クイーン

体を具現化できるのは、この銀河鉄道の中だけ。だから外には出られないのよ

鉄夫

嘘だ・・・俺も、クイーンももう死んでるなんて・・・

クイーン

迷いながら成長することも大事ですが、決断が遅いのも文字通り命取りなのです

鉄夫

俺はそんなの信じない！そうだ、皆に聞いて確かめてくる！

鉄夫、出ていく

クイーン

何故・・・私を待って？

クイーン

私の家族は鉄夫です。でもあなたは、たった一人の肉親だから・・・

奈津美

うわ、新事実

クイーン

姉さん・・・

梨花 姉妹だあ・・・似てない

見つめ合い、手を取り合う二人

梨花 本当はいいシーンなんだろうけど

奈津美 なんだろう、イラッとするわ

テームル 鉄夫を探してきます

クイーン 私も行くわ

テームル お騒がせしました

テームルとクイーン、出ていく

梨花 あの人たち、死んでたんだ・・・

奈津美 そうみたい

梨花 ねえ、カバンニの目的地って・・・

ジョン うるさい！

カバンニ うん、わかってる。また来たんだね・・・

奈津美 そつか。物語だと、カバンニの目的地は・・・

カバンニ その通りです。本当は僕はサザンクロスで降りなければならぬんです

ジョン いいんだよ！俺たちはずっと旅をするんだ、どこまでもどこまでも、一緒に旅をするんだ！

黙る一同、玲奈が目をさます

玲奈 なぜ、降りることを怖がるの？

奈津美 玲奈ちゃん

梨花 起きて平気？

玲奈 ずいぶん前から目は覚めていました。あんなに騒がしいんですもの。ねえ、なぜ降りることを怖がるの？

ジョン

玲奈

カバンニ

玲奈

ジョン

玲奈

カバンニ

ジョン

玲奈

ジョン

玲奈

カバンニ

玲奈

カバンニ

ジョン

カバンニ

玲奈

カバンニ

ジョン

玲奈

ジョン

玲奈

ジョン

カバンニ

カバンニは怖がつてなんかかない！

ううん、怖がつているのは、あなた（ジョン）。なぜ友達が降りてしまうことが怖いのか？

違うんです！ジョンパネルラは僕のせいだ……僕がいつまでも決められないから……

逆よ。決められないのはあなた（ジョン）。そんなに別れが怖い？

怖くなんかないさ！

カバンニはあなたを一人にしてしまうのがとても心配なの。あなたはカバンニの前では強く、素直でいられるから

自分がいなくなった後のあなたが心配で降りられないよ

違うよ、ジョンパネルラ、そんなことない！

そうさ俺はカバンニの決心がつくまで一緒にいるって決めたんだ！

決心がとづくに付いてるとしたら？

え？

カバンニはずつと前から決心がついていて、あなたを思い、ここに残っているの

ちよつと……

考えて。あなたはカバンニと一緒にいられることが幸せでしょ？だから切符は無期限。

だけど、カバンニにとつての幸せって何？

カバンニの幸せ……

僕の幸せ……

ここに留まることではないでしょ

そ、そんなことないさ！僕はこれで幸せなもの

そうだよ！天上なんかに行ったっていいことなんか何もないさ

どうしてわかるの？

だって……

車掌さんに聞いたわ。あそこで降りて戻ってきた人はいないって。どうしていいことがないなんて言えるの？

それは……それは……

ジョンパネルラ！

走り去るジョンパネルラをカバンニが追いかける

玲奈　ちよつときつかつたでしょうか  
奈津美　玲奈ちゃん、あなたなんでそんなに詳しいの  
梨花　さつきと別人みたい  
玲奈　・・・憧れだったから。銀河鉄道は・・・  
奈津美　え？

和樹が入ってくる

和樹　玲奈、具合はどうだい  
梨花　出た！

和樹　・・・玲奈を見てくれたんだね、ありがとう  
玲奈　お兄ちゃんこそ大丈夫？

梨花　泣きじゃくってどうしようもなかったって聞いたけど  
和樹　全然泣いてなんかないし・・・へらへらしてるよ

奈津美　は？私たちの前でへらへらできるわけ？

和樹　あ、いや

玲奈　すみません。兄が悪いんですものね

奈津美　いや玲奈ちゃんはいいのよ

玲奈　いえ、私がお兄ちゃんを操っていたようなもので。ずっと  
和樹　違うよ、玲奈

玲奈

和樹　東京へ行くのだったって、岩手へ帰るのだったって、養鶏するのだったって、全部私がヒントを転がしておいたんです。  
玲奈　お兄ちゃんは簡単に乗ってくれたから

和樹　そんなことないよ玲奈。お兄ちゃんは自分で決めたんだ

玲奈　決めたのはお兄ちゃん。願ったのは私。全部私の誘導で思い通りに動いてくれた  
和樹　玲奈、どうしたんだ

玲奈　ここに乘ったのも私が望んだこと

和樹

玲奈

奈津美

これに乗りたかったの？

玲奈

そう・・・私こう見えていい年なんですよ。だから結構世間のこともわかってますよ。

寝てたつて情報が入ってくる時代ですから。私、だから、自分があまり長く長い事も知ってたんです・・・

私が一番好きだったのが、育った地元で伝わる銀河鉄道の話

奈津美

地元？ああ、岩手の・・・

玲奈

そう、作者が住んでた街。色んなところに宇宙の面影が伝わっている街。

梨花

子供っぽい話だけど、みんな一度は描いた星の海・・・最後はこんな星に囲まれて旅をしたいなあって思ったんです

玲奈

奈津美さん、梨花さん、ごめんなさい。お兄ちゃんそそのかして連れてきました

車掌が入ってくる

車掌

まもなくケンタウロス座サザンクロス駅に到着です。お降りの方はご準備をお願いします

車掌出ていく

梨花

二人で夜中の丘の上に登りました。銀河鉄道が来ると言われている、天気輪の柱の丘に。

奈津美

大きな光と共に汽車は私達二人を迎えてくれました

玲奈

望んで、乗ったのね

梨花

はい。憧れの銀河鉄道に乗れたら私はもう思い残すことはありません

ねえ、さつきからなんで、その・・・もう終わりみたいに話すの？

汽笛。汽車が段々と速度を落としていく

車掌

(オフ) まもなく、サザンクロス、サザンクロス！

奈津美

私たちは迷ってたから汽車がやってきた。行き先が決まっていなから切符は無期限

梨花  
奈津美  
だけど、玲奈ちゃんと和樹は望んで乗った。行き先は決まっていたのね  
銀河鉄道は乗客が望んだ場所へ進む列車。そして到着した駅は・・・

列車が止まる

車掌  
（オフ）サザンクロスに到着です。魂の終着駅サザンクロスでございます。

皆様、お忘れ物、おやり残し、ございませんようご注意くださいませ

和樹  
梨花、ごめん。君たちを待っているなんて言っておきながら・・・

和樹？

和樹  
玲奈は、僕がいないとダメなんだ

車掌が入ってくる

車掌  
お降りの方いらつしやいましたら、どうぞー

和樹  
玲奈、行こう・・・（玲奈の手をとり、歩き始める）

玲奈  
本当に「ごめん」なさい。私のせいで

和樹  
玲奈は謝らなくていい。僕のことを庇わなくてもいい。

奈津美、梨花、振り回してごめん。君たちと過ごした時間はとても大事な、本当に素敵な時間だった。

だけど君たちは僕がいなくても幸せになれる。玲奈は、僕がいないとダメなんだ。

こんな別れになっただけ僕は幸せだよ・・・さようなら

玲奈  
ありがとう

和樹、玲奈、去る

二人  
・・・和樹――！！

梨花  
何よ勝手に

奈津美 自分だけかっこつけてんじやないわよ。最低男のくせして

キャプテンとクイーンが入ってくる

キャプテン いたか

梨花 私たちに用事ですか？

キャプテン ああ、お前たちは降りないのだろうか？

梨花 ええ

キャプテン 別れを言いにな。いいか、生きる者たちよ、栄光や名誉や地位にすぎるな。

クイーン 人はお前の過去なんかどうでもいいんだ。今の自分を愛して貰わんな

美しさもね。外見はいつか綻ぶ。衰えない美しさを見つけないさ

キャプテン また別の世界で一緒に旅ができることを祈ろう。さらばだ

キャプテン、クイーン去る

奈津美 何アドバイス？

梨花 言いたいこと言って行っちゃった

鉄夫が入ってくる

鉄夫 ……カッコ悪いところ見せちゃったな

梨花 いや、別に

鉄夫 どうやらそういうことみたいだからさ、俺も降りるよ

奈津美 そう

鉄夫 ああ、寄り道も迷うのも大事だと思っただよ！そうだろう？

梨花 ん？うん

鉄夫 人は成長しなきゃダメだもんなん！でもさあ、俺みたいに時間かかっちゃったら……これは……何なんだろうな？

奈津美

何なんでしょうか・・・

テームル出てくる

テームル

鉄夫、行きましよう

鉄夫

わかったよ・・・じゃあな

テームル

あなた達は、あなた達の光を見つけてくださいね

鉄夫、テームル去る

奈津美

また押し付け

ジョンパネルラが入ってくる

ジョン

・・・さっきの女は？

梨花

玲奈ちゃん？もう降りちゃったわよ

ジョン

ふーん

カバンニが来る

カバンニ

奈津美さん、梨花さん、僕、降りることにしました

奈津美

そうなんだ。決心ついたんだね

カバンニ

ジョンパネルラと一緒に降りようって言ってくれたんです

ジョン

別に、あの女に言われるのがムカついたからさ

奈津美

そう、よかったね

カバンニ

はい

ジョン

カバンニは俺がついてないとダメだからさ

カバンニ

うん、ありがとう！

梨花

やつと降りられるんだね

カバンニ

はい、長い旅でした

ジョン

俺はもつと乗っててもいいけどな

カバンニ

降りようジョンパネルラ。僕たちの目的地だもん・・・降りても、僕たちずつと一緒だよ？

ジョン

・・・当たり前だろ

奈津美

さようなら

カバンニ

さようなら

梨花

じゃあね

ジョン

じゃあな

カバンニ

お二人も早く目的地が見つかるといいですね。なりたい自分見つけてください

奈津美

・・・無理よ

梨花

え？

奈津美

あなたたちみたいな有名な主人公が今まで見つけられなかったのに・・・

カバンニ

私なんて、ただのOLよ。そんな壮大な自分が見つかるわけじゃない

奈津美

奈津美さん・・・

梨花

色んなこと詰め込みすぎないですよ・・・もつと自信なくなるよ・・・

奈津美

・・・

汽笛、発車ベル

車掌

(オフ) まもなく発車です！お急ぎください

ジョン

・・・ばーか！

奈津美

は？

ジョン

関係ねーよ！確かに俺たちは自分の話では主人公かもしれねーけど、この話の主人公はお前たちだぜ。

自分の話の主役は自分に決まってるだろ？主役が思うとおりに動くのは当たり前だろ？

自分のこと信じないでどうするんだよ！

カバンニ  
ジョン  
カバンニ  
ジョン  
カバンニ  
梨花

ジョンパネルラ・・・  
俺の話の主人公は俺だから、俺は俺の思うとおりに動くの。じゃあな  
ジョンパネルラ・・・大人になつたね  
うるせえな、行くぞ  
さようなら  
さようなら・・・

発車ベル。カバジョン去る

車掌  
(オフ) 出発進行!

汽車が走り始める

【第8場】二人の行き先

奈津美

はー・・・

梨花

なーに？気になってるの？みんなの言ったこと

汽車の音だけが鳴っていたが、やがて静かになる

梨花

随分静かだね

奈津美

うん

梨花

いっぱい降りたもんね

奈津美

うん

梨花

私、他の車両見てくる！

奈津美

うん

梨花、出ていく

奈津美、ゴロゴロと物思いにふける。ふと何かに気づき、窓の外、周りを確かめる

梨花が走って戻ってくる

梨花

奈津美！大変、この列車誰も乗ってない。さっきの駅でみんな降りちやっただけみたいよ

奈津美

それより・・・

梨花

車掌さんいなくなつた。どつか別の部屋とかあるのかなあ

奈津美

梨花！それよりも・・・この汽車、動いてない

耳を澄ます二人。音がしない

窓の外を見るが動いている気配はなく、星しか見えない

梨花

止まつてる

奈津美

止まってるよね？！

梨花

駅かなあ？

奈津美

それらしいものは見えないわよ

梨花

非常停止とか？よくあるじゃない、信号とか落下物とかで

奈津美

宇宙よここ

梨花

車掌さん探そうか

奈津美

うん

二人出ていき、しばらくして戻ってくる

梨花

いない！

奈津美

あ！運転席だ！

梨花

そうだ！運転手さんいるはずだもんね

再び二人で出ていき、しばらくして戻ってくる

梨花

いない！

奈津美

何なのよ。なんで運転席が機械だらけなのよ。フルオートなの？じゃあやつぱり電車じゃないのよ

梨花

そういえばこれって何で動いてるんだろうね

奈津美

知らないわよそんな事

梨花

車掌さんもさっきの駅で降りちゃったのかなあ

奈津美

知らない

梨花

運転手さんも降りちゃったとか？

奈津美

知らない

梨花

あ、でもそしたら発車させたのは誰？

奈津美

知らないわよ！なんでそんな呑気なの？このまま一生動かないかもしれないのよ？！  
のんびりしてたら手遅れになっちゃう

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

梨花

奈津美

何が手遅れになるの？  
わかんないけど・・・何かに手遅れにならないように焦ってるのよ  
焦ってどうにかなるの？

私は今考えてるのよ！行き当たりばつたりのあなたみたいじゃないの！

・・・

・・・ごめん、言いすぎた

・・・大丈夫。とにかく、どうしたらこの状況が良くなるか、考えなきゃね

うん・・・

各々、座って考える

二人

奈津美

梨花

奈津美

ねえ

あ・・・どうぞ

あ、私はいい

いや、私も大丈夫

・・・

二人

梨花

奈津美

梨花

二人

あの！あ・・・

じゃあ、私喋る

いや、私から話す

いやいや私から・・・

・・・

・・・

二人

なんか・・・あ・・・

奈津美  
梨花

ふふ・・・カップルか！  
告白前か！

笑っている二人。大笑いする二人。やがていつの間にか笑いが涙に変わる

梨花  
みんな、いなくなっちゃったね  
誰も救われてないじゃん

奈津美  
自分の夢、私たちに託してさ

梨花  
みんな頑張ってきたのに  
あんな終わり方で悔しいよね、きっと

奈津美  
満足してるなんて、強がって  
ほんと、バカみたい

梨花  
私もそう思う  
・・・こいつが動かないのは、きっと私たちに目的地がないからよね

奈津美  
私たちが自分を決めれば、きっと動き出す  
うん

梨花  
私はあと少し・・・梨花は？  
私もあと少し  
うん

奈津美  
私はきつとすぐには変わらない  
私も、みんなが教えてくれたこと、ちゃんと受け止めるけど、私は私

梨花  
そう。迷ったりもするけど結局のところ  
私は私になりたい

二人  
だからもうブレない  
迷わない

奈津美  
逃げない  
私を裏切らない

梨花  
私を裏切らない

奈津美  
梨花  
奈津美

たまには弱ったりもするだろうけど  
私になるために  
私は私の日常へ帰りた

蒸気の上がる音。大きく汽笛が鳴り、やがて車輪が回り始める  
喜びと安堵の二人

梨花

帰ろう

車掌

(オフ) えー、次の停車駅は・・・

車掌の声をかき消すように汽笛。車輪が勢いを増し、二人を大きな光が包む  
暗転

【第9場】終着駅

奈津美が目を覚ますと、そこは新橋の駅前広場  
事態が飲み込めずキョロキョロ。梨花の姿はない

奈津美  
梨花ー！・・・本当に夢だったの？

シャッターの開く音。眠そうな駅員が出てくる

駅員  
奈津美  
あれ？昨日終電の時にいましたよね？もしかして、ずつと？  
・・・

駅員  
奈津美  
始発までもうしばらくお待ちくださいね

駅員  
奈津美  
あの一・・・  
はい？

駅員  
奈津美  
新橋駅の・・・駅員さんですよ？  
え？ええ

駅員  
奈津美  
駅前広場駅の駅員さんじゃないんですよ？  
駅前広場駅？！と言いますと？

駅員  
奈津美  
だから、あのSLの・・・  
SL？ああ、あれがどうしました？

駅員  
奈津美  
だから、あれが銀河鉄道で、ここが発車する駅で・・・  
・・・かなり飲んでいらつしやいました？

駅員  
奈津美  
今日は飲んでません！  
飲みすぎの方は皆さんそうおつしやるんですよ

駅員  
奈津美  
・・・もういいです  
もうすぐ始発が来ますから、早く帰られたほうがいいですよ

駅員去る

奈津美 ホントに・・・全部、夢？梨花も・・・そうだ、和樹！（携帯を取り出し和樹へ発信するも繋がらず）  
梨花・・・帰ろう・・・（力なく立って、改札へ向かう）  
梨花 こらー！

梨花が来る

梨花？

リアクションが薄いわよ！

梨花ア！どこ行つてたのよ

奈津美より先に目が覚めちゃつてね。はい（缶コーヒーを渡す）

・・・ありがと

で、奈津美が起きたのが見えたから隠れてたの

もー！

ごめん。・・・ねえ、汽車、動かなくなつてるね

うん・・・

夢だったのかなあ？

でも、二人で同じ夢見るなんてないでしょ

そうだよね

・・・夢じゃなかったよね

うん、きつと

あ・・・切符（ポケットから取り出す）

あ！私もあった

やつぱり、夢じゃなかったんだよね

うん

無期限切符か・・・また乗れるかな？

奈津美

梨花

奈津美

梨花 願えばきつと乗れるよ

奈津美 また一緒に乗ってくれる？

梨花 独身だったらね

奈津美 あてはなくなつたでしょ

梨花 これでも人気あるんだつて言つたでしょ

奈津美 そつか・・・帰ろつか

梨花 うん、帰ろう

帰路へ歩き出す二人

奈津美 梨花！

梨花 何？

奈津美 私、本当は・・・本当はあなたみたいに

梨花 私みたいに？

奈津美 ・・・・何でもない！

梨花 そつか。奈津美 私もきつと同じこと思つてる。奈津美みたいにつて

奈津美 梨花も？

梨花 うん。でもそれはきつと無いものねだりだから

奈津美 そうだね。私は私

梨花 うん。あ、見て！

梨花が指差すと、空には走り去る銀河鉄道

手を振る二人

答えるように汽笛を鳴らし続ける銀河鉄道であつた

~~~~~完~~~~~